

# 令和4年度

## 保幼小連携・接続実践事例集

### (掲載した実践事例)

- 相互参観、参観や体験を含む合同研修会
- ICTを活用した交流・連携
- オンライン合同研修会
- 合同研修会・協議会、その他市町村の取組
- 幼児教育施設や小学校それぞれの円滑な接続に向けた取組



コロナ禍においても、各市町村で工夫し、市町村幼児教育アドバイザー等を中心に、保育者と小学校教員が連携し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組が行われています。取組の参考にしてください。

## 令和4年度 保幼小連携・接続実践事例集 掲載事例一覧（市町村名）

### 1 相互参観、参観や体験を含む合同研修会

東海村、那珂市、常陸太田市、鉾田市、守谷市、かすみがうら市、美浦村、阿見町、利根町、下妻市、筑西市、坂東市、五霞町

### 2 ICTを活用した交流・連携

大子町、土浦市、東海村

### 3 オンライン合同研修会

北茨城市、つくば市、稲敷市、八千代町

### 4 合同研修会・協議会、その他市町村の取組

水戸市、笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、日立市、潮来市、神栖市、行方市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくばみらい市、常総市、境町

### 5 幼児教育施設や小学校それぞれの円滑な接続に向けた取組

- ・高萩市、鹿嶋市、河内町、古河市、結城市、桜川市
- ・（参考）境町の実践事例

## 保幼小接続スタートカリキュラム作り

～より良いスタートカリキュラムを目指して～

- ・東海村では、毎年小学校が持ち回りでスタートカリキュラムについて、保幼小接続研修会と題し村内の保育者・学校教諭等に公開している。
- ・よりよいスタートカリキュラム作りを目指して、学区内の公私立の保育者、と小学校教諭が連携し協議を行う。
- ・協議内容を基に、スタートカリキュラムの見直しや1年生を受け入れる環境作り、授業の導入方法の検討等について行う。

**参加者** 小学校教諭：学区内の幼児教育施設3か所の保育者(公私立)：教育委員会担当  
**準備** ・PC ・電子黒板 ・Zoom アカウント

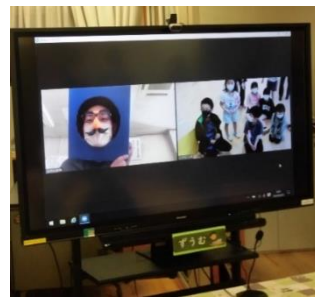


小学校教諭(教務主任・1年生担任)と学区内の保育者、教育委員会が、スタートカリキュラムについて協議する。また、1年生を受け入れる環境についても実際の教室を見ながらアイデアを出し合った。



### ◎協議から生まれたアイデア

空き教室を利用した、登校後に自由に遊べる環境。大きさごとに準備された空き箱や、折り紙コーナー、貼り絵コーナー等が設置されている。



### ◎オンライン交流コーナー

廊下には、電子黒板が設置してあり、幼児教育時の担任とのオンライン交流が図れる。新しくできた友達を紹介したり、マジックを見せてもらったり等、交流を楽しんでいた。

### 保幼小接続研修会(スタートカリキュラム)に参加しての感想(一部)

#### ○幼児教育側の意見から

- ・好きな遊びが楽しめる環境や、保育者とのオンライン交流等、安心できる場づくりがなされていると感じた。学校へ行く楽しみにもつながっていると思う。

#### ○小学校教員の意見から

- ・朝の活動のちぎり絵、ダンボール積み、工作遊び等、児童がこの時期に興味をもつ素材や活動を知ることができた。本校のスタートカリキュラムにも生かしていきたい。

#### ○中学校教員の意見から

- ・遊びの中から新たな発見があったり、友達の良さを見つけたりする場面があり、毎日の小さな積み重ねが一人一人の成長や学級づくりにつながっていると感じました。

## 保幼小中連携協議会を軸とした保幼小の連携・接続

本市では、幼児児童生徒に対する、幼児教育から小学校教育、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を図るために、発達段階に応じた指導内容や指導方法を検討するとともに、早期からの一貫した教育を充実させるため、令和元年度から那珂市保幼小中連携協議会を設置している。関係する行政の代表者、校長会の小学校及び中学校の代表者、公立及び私立幼児教育施設の代表者が一堂に会し、保幼小中の効果的な接続の在り方について協議を行っている。また、協議会と同時進行で、小学校教員の保育体験を行うなど、特色ある取組を推進している。

**協議会委員** ⇒ 行政関係：6名、公立幼：1名、私立幼：1名、公立保：1名、  
私立保：1名、小学校：1名、中学校：1名  
**保育体験参加者** ⇒ 市内小学校から各1名（主に低学年担任）

### ■ 保幼小中連携協議会 「那珂市における保幼小中連携の今後の方向性について」

#### ◇ 協議会委員からの意見より

- ・「幼児教育施設全体の連携を密にし、職員が1週間ずつ他園を体験するのはどうか。」
- ・「子供たちとの関わり方を、小中学校の先生たちに学んでもらいたい。」
- ・「職員同士の交流を推進し、子供の心情を理解した教育にしていかなければならない。」



### ■ 小学校教員による保育体験の実施

#### ◇ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・「このような取組を今後も継続していくことが、保幼小の滑らかな接続につながっていく。」
- ・「保育園や幼稚園の職員が、小学校で授業体験をする機会があるとよい。」

#### ◇ 小学校教員の意見から

- ・「幼児の段階でこんなに多くのことができるのに、小学校に入学した途端に赤ちゃん扱いをしてしまうのは、子供の成長にとってマイナスだと強く感じた。」



保幼小中連携協議会を土台としたネットワークを活用し、情報交換を密に行ったり、幼児教育施設での保育体験、小学校での授業体験を行ったりすることで、より連携を深めることができた。今後もこの取組を継続・発展させることで、子供たちのシームレスな学びを実現していきたい。



## 保幼小交流参観

～市計画訪問等を活用した保育・授業参観の実施から～



### <取組の概要> **今年度の重点** 保幼小相互交流

年度当初の市指導方針説明会において、全小・中学校及び幼稚園・こども園の市計画訪問一覧表を配付するとともに、1か月前には、当日の日程表を周知した。また、幼児教育施設と小学校で連絡を取り合い、交流や体験研修等を実施していただくように通知した。

**対象** 市内公立幼稚園及び認定こども園・小学校  
**準備** 計画訪問当日の各園・小学校の指導案  
 ※ 日程表（体験交流及び体験研修等の場合）



### ■ 小学校授業参観・幼児教育施設保育参観

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し、幼児教育施設では、遊びがどのような学びにつながっているか、また、小学校では、学びがどのように行われているかを参観の視点として相互交流を図った。

#### 【園内リーダー及び接続コーディネーターによる参観時の様子】



<世矢幼稚園>

<久米幼稚園>

<里美小学校>

<金砂郷小学校>

### ■ 小学校での体験研修における協議会

#### ○ 幼児教育施設保育者の意見から（抜粋）

- ・入学を見据えての取組について、今後も情報共有していきたい。
- ・園児の保護者から、小学校での読み書きについての不安や悩みなどが出ていることを挙げ、具体的な支援の方向性を情報交換できた。
- ・入学前の1月頃に、小学1年生の1日の様子を動画で撮影いただき、小学校との交流を広げていきたい。

#### ○ 小学校教員の意見から（抜粋）

- ・保育者の視点を共有することができた。
- ・遊びと学びのつながりを意識していきたい。
- ・第1学年担当にならないと分からないことが多いため、校内で情報共有したい。



<金砂郷小学校での協議会の様子>

#### <成果>

これまで年度当初や年度末の情報交換会、行事での保幼小交流にとどまっていたが、体験研修や授業・保育参観の実施により、保幼小接続が推進された。今後は、まだ参観を実施していない園や学校に声をかけ、交流の幅を広げられるようにしていきたい。

# 「遊びが育てる学びの未来」を共有できる研修会

～銚田市保幼小接続担当者研修会の実践～

市内では、中学校区ごとに保幼小の連携を図り、職員同士の研修会や相互参観が進んでいる。しかし、相互参観をする際の視点に戸惑う職員が多い。そこで、フォトカンファレンスを実施し、子どもたちの姿の見取り方について研修し、相互参観及び交流・連携活動等に生かしていくこととした。

**参加者** 公立幼：3名、小学校：7名

**準備** ・銚田市保幼小接続カリキュラム

- ・接続期の幼児・児童の活動の様子の写真（各園・小学校）→フォトカンファレンス
- ・グループワーク用ワークシート、付箋

## ■銚田市担当者研修会

【協議(1)】フォトカンファレンス

1 本年度担当者顔合わせ

2 協議(1)：接続期の幼児・児童の姿を共有

- ・フォトカンファレンスによる幼児・児童の見取り方を研修  
→銚田市接続カリキュラムの「子どもの姿」に照らし合わせ、  
どんな力が育まれているのか共有する。

※相互参観時の視点になるように

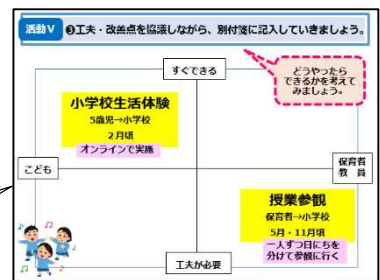


3 協議(2)：保幼小の連携・接続に関する取組について（中学校区による協議）

- ① 子ども同士の交流
- ② 保育者・教員の連携
- ③ ①②をさらに、「すぐに取り組めること」と「実施するには工夫が必要なこと」に分け、実施に向けた協議を行う。
  - ・コロナ禍でも取り組める工夫
  - ・ICTの有効活用
  - ・園・学校行事や教科等との関連

できる・できないに関わらず、やっておきたいことをできるだけあげる。

「シート」を教頭会で共有し、管理職の理解と支援を依頼。



↓  
できることから即実行！

【協議(2)】ワークシート

## ■相互参観及び保育体験

中学校区ごとに相互参観及び保育体験を実施

### ○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・小学1年生の学校生活や学習の様子がよく見取れた。
- ・幼児教育施設での遊びが活かされていることを感じた。
- ・個に応じた支援ができるよう、さらに連携を深めていきたい。

### ○ 小学校教員の意見から

- ・幼児教育施設では、幼児の主体性を存分に生かした教育活動が行われている。幼児の実態に即して、柔軟に対応できる保育者の準備が素晴らしいと感じた。
- ・幼児教育施設における「遊び」がベースとなり、小学校での生き生きとした姿になっていることを実感できた。

【実践】相互参観・保育体験



次回の研修会では、本年度の相互参観、交流活動等の取組を振り返り、「保幼小接続カリキュラム」の見直しを行う。また、スタート期（4・5月）における相互参観の実施が課題となっているため、本年度内に計画準備を進めておき、担当者等の変更にも対応できるようにしておきたい。

## 保幼小連携を促す相互授業参観

守谷市では保幼小一貫教育「きらめきプロジェクト」の一環として「保・幼・小連絡協議会」の主導による、小学校と幼児教育施設の相互授業参観が行われてきた。コロナ禍において、これまでの取組が途絶えてしまわないように、新たな形での相互授業参観を模索しながら取組を進めてきた。

**参加者** 私立幼：1名、私立保：5名、小学校：4名  
**準備** 授業公開の案内通知、健康観察票 等

### ■ 計画訪問を活用した授業参観

市内小学校の計画訪問の際に、幼児教育施設（今回はコロナ禍のため、保幼小接続担当者研修への参加者のみを対象）に授業参観の案内をした。6名の幼児教育施設の先生方による授業参観が実現した。守谷市の重点施策の一つである外国語教育に注目し、低学年の英語活動を参観した方からは、保育園でも取り入れていきたいと話していた。

特別支援学級の授業参観を希望する保育園の先生方には、市内小学校の算数科の授業を参観していただいた。授業後には、特別支援教育コーディネーターとの意見交流を行った。授業における個に応じたきめ細かな手立てや ICT 活用の状況を見て、今後の保育に生かしていきたいという感想が出されていた。今年度の取組をもとに、次年度以降は、計画的に幼児教育施設に授業参観の案内をしていきたい。



### ■ 市内小学校教員による公開保育参観

小学校の夏季休業を利用して、市内小学校教員による公開保育参観が実施された。今回は、市内の保育園による提案を受け、市内小学校に周知したところ、教員5名、指導主事2名による参観を実現することができた。低学年を担当する若手教員からは「あまり指示をしていないのに、園児たちは自分で考えて行動をしていた。担任している学級でも取り入れてきたい」という声が挙がっていた。

参観後には、園長先生、年長児担当の保育士、参観者による意見交流を行った。小学校の教員にとって、学び多き一日となった。



### まとめ

直接その場に足を運んで、子どもたちの様子や教員の姿を見合うことが難しくなってしまった中で、試行錯誤をしながらも、今回の取組を実現することができたのはとても有意義であった。今後も相互に働きかけながら、さらに広げていくようにしたい。



## 幼児期の実態を踏まえ、円滑に小学校生活をスタートさせるために

～保育参観及び授業参観を通して～

遊びや生活を中心とする幼児教育と、教科等の学習を中心とする小学校教育。小学校入学時において、さまざまな変化に対応しきれず、スムーズな適応が難しい児童が見られる現状がある。そこで、保育参観と授業参観を行い、小学校入学前と後の子どもの実態の理解を深め、保幼小の接続がスムーズに行われるようにしたいと考えた。また、保育者側と小学校教員側との両方の視点から協議する場を設けることで、双方の今後の教育に生かしていきたいと考えた。

**参加者** 第一保育所：1名、霞ヶ浦保育園：2名、美並未来みなみこども園：1名  
霞ヶ浦南小学校：2名、霞ヶ浦北小学校：2名

### ■保育参観及び授業参観の実践

- 6月16日 授業参観と協議（霞ヶ浦北小）
- 8月2日 保育参観（第一保育所）
- 8月4日（中止） 保育参観と協議  
（美並未来みなみこども園）
- 8月9日 保育参観（霞ヶ浦保育園）
- 9月9日 授業参観（霞ヶ浦北小）
- 10月18日 授業参観（霞ヶ浦南小）

保幼小のスムーズな接続を図るために、保幼で身につけておきたい力、小学校で求めるべき力について子どもの実態を知ったり、保育者と小学校教員とで、意見交換を行ったりした。



### ■実践における主な意見

保育者と小学校教員の立場から、小学校入学までにつけておきたい力や配慮を要する児童について協議した。

#### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 配慮を要する児童の、保護者への現状の伝え方が難しい。小学校で指摘されて驚く保護者もいる。どこまで踏み込んで良いのかが難しい。
- ・ 引き継ぎを確実に行ったはずが、新年度が始まってから改めて問い合わせが来ることがたびたびある。担任への申し送りを確実にしたい。

#### ○小学校教員の意見から

- ・ 液体のりの使い方に慣れるため、年長児から使用を開始するなど、入学後の作業がスムーズになるように、入学後を見据え、生活の中で取り入れてもらえるとありがたい。
- ・ 引き継ぎを担当する者が、必ずしも担任になるとは限らず、また、年度末は異動などもあるが、確実に情報共有できるように努めていく必要がある。
- ・ 園によって引き継ぎ情報に差があり、入学してから知る事実も多々ある。

相互の参観・協議を通して、子どもの実態を知り、小学校入学前後で必要となってくる力を確認することができた。今回の参観・協議を通して学んだことを生かし、幼児期に身に付いた力を小学校で伸ばせるようにしていきたい。また、引き継ぎに関しては、保幼小どちらの立場においても、改善を求める声があった。全職員に周知し、確実な引き継ぎになるよう努めていきたい。

## 相互参観の実施に伴う研修の機会の充実と保幼小中連携

### 概要

村内小中学校及び幼稚園の計画訪問の際、相互授業参観を行い、意見交流をし、保幼小中連携の充実を図る。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直近3年間は特に保育所のみ制限)

- ・村内保幼小での計画的情報交換(年度末実施)

**参加者** 村立小中学校・幼稚園・保育所教職員全員・教育委員会事務局職員・村教育委員  
**準備** 事前・・・計画訪問について(時間、場所、参加者報告等)の周知  
 事後・・・感想カードの記入(実施校ごと)、参加者以外への報告、情報共有等

### ■ 計画訪問相互参観

各校の計画訪問のテーマに沿って実施した。新型コロナウイルス感染防止のため、予め密にならないよう事前に参加者報告をとり参観した。

授業での幼児、児童、生徒の活動等を参観し、指導者である教職員は、お互いの校種への理解や系統立てて連続して指導していくことの大切さなどを感じていた。

### ■ 計画訪問の感想から

#### ○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・幼稚園の時には教師の話の途中で話をする子が多く課題でしたが、落ち着いて授業を受けている姿に成長を感じました。
- ・低学年は大変だと感じました。話を聞く姿勢を保育所でもしっかりと身に付けていかなければいけないと感じました。6年生は言葉遣いや発表の仕方もしっかりとしていました。6年間の成長が感じられました。保育所の6年間の成長もすごいのですが、こうして12年間育っていくのだと思うと感動です。美浦村の子供たちがこれからも大きく育ち巣立ってほしいと改めて感じた1日となりました。保育所に戻り、このことを子供たちに伝え来年小学校に送り出したいと思います。

#### ○ 小学校教員の意見から

- ・どの教室も壁面構成など工夫が見られ全て手作りしていました。また、教室に様々な遊び道具や幼児の興味を引きそうなものが意図的に配置されており、環境づくりがすばらしいと感じました。環境を通して幼児の学びを促進させている様子がよくわかりました。
- ・幼稚園での外国語活動の参観は初めてでとても興味深かったです。オールイングリッシュで行われ、園児も英語の指示にしっかり反応できていてとても驚きました。また、園児から発せられる英語の発音もとてもナチュラルで、幼少期から生の英語を聞いたり話したりすることはとても大切なことであることを実感し、小学校の外国語活動や外国語につなげていけたらと思いました。

まとめ・・・学校段階等間を円滑に接続する教育活動の推進につながった。

保幼小中段階での育成を目指す資質・能力の共有につながった。

計画的な相互参観を行い、教職員が系統性を意識して実態を捉え日々の教材研究や授業改善につなげることが必要であることを実感する場としていく。



## 小学校と幼児教育施設との関係を密にする取組

小学校と幼児教育施設の教員同士の接点は年度末の学級編成会議以外にはほとんどなく、幼児教育施設の教員は小学校に進学した子供たちがどのように学校生活を送っているのかわからない状況でした。そこで、小学校と幼児教育施設との関りを増やし、教員が互いの様子を見合うことで、共通理解を図ることができるのではないかと考えました。

**参加者** 町内小学校教員、町内幼児教育施設教員、教育委員会指導主事、社会教育主事

- 準備**
- ・学習指導案
  - ・校舎案内図
  - ・阿見町保幼小接続カリキュラム

### ■「小学校授業参観のご案内」

コロナ禍、幼児が小学校訪問は難しいと考え、町内の幼児教育施設の代表者宛に、R3年度阿見町立小学校計画訪問の日程をご案内しました。参観の視点である小学校生活に慣れたかどうかを見ていただき、本人の様子で不安等何か気になったことがあればお知らせいただきたい旨を前もってお伝えしました。参観した後の感想を学校関係者にお話しくださった先生方が多かったです。予想以上に小学校に足を運んでくださりました。



### ■「情報交換会」

2月に情報交換会を予定していたのですが、コロナ禍で中止としました。代替として、紙面にて、引継ぎ事項をまとめ、各小学校へ提出していただきました。幼児教育施設によっては、感染予防策をしっかりと行い、対面で引継ぎを行った施設もありました。また、なかなか実施できない保幼小の研修会について、ご意見をくださる先生方もいます。

- 幼児教育施設保育者の意見から
  - ・小学校入学までにできるようになっていたほうがよいことは具体的に何か。
  - ・指導要録を町内で統一する予定はあるか。
- 小学校教員の意見から
  - ・ずっと保育参加できていなかったもので、ぜひ参観したい。



### ■「保幼小接続カリキュラムの研修」

これまでコロナのために実施ができなかった幼児教育施設の教員を対象にした「阿見町保幼小接続カリキュラム」についての研修会を12月までに実施する予定です。小学校に進学する前の幼児期に育ててほしい子どもの姿を各幼児教育施設の教員と確認し、小学校に入学した児童がスムーズに学校生活に適應できるよう共通理解を図っていきます。



今後は、教員だけではなく、子供たちの交流を中心に支援をしていきたいと思っております。一堂に会しての事業は難しいかと思っておりますが、工夫をしながら子供たちの成長を第一に考え、取り組んでまいります。

## 幼児教育と学校教育の円滑な接続のための研修会

～GIGA スクール構想によって変化する学校教育の理解～

概要・・・一人一台端末（学習用タブレット）が整備されたことにより、学校教育がどのように変化していくのかを、幼児教育施設の先生方に理解していただくため、小学校1年生の生活科の授業の中で、ICTを活用する児童の様子を公開した。

- 参加者** 私立幼稚園：2名、私立保育園：3名、小学校：3名、町保健センター：1名
- 準備**
- ・第1回保幼小連絡協議会での年間活動計画の確認
  - ・指導案の作成
  - ・開催通知
  - ・各小学校のスタートカリキュラムの見直し

### ■授業参観「アサガオの観察記録をタブレットのカメラ機能で」

- 実施日：令和3年7月9日（金）
- 実施場所：利根町立布川小学校
- 授業の様子について（第1学年 生活科）

アサガオの観察をする際に、これまではスケッチをして観察記録をまとめる学習活動が一般的であったが、「タブレットのカメラ機能で写真をとること」や「撮影した写真を使って観察記録をつくる」という学習活動を設定した。

入学して3か月が経過した児童が、chromebook にログインしてタブレットを操作する様子を参観した。



### ■授業参観後の協議内容について

- 授業参観後、参加した教員で、授業についての情報交換を行いました。その後、スタートカリキュラムの改善に向けた話し合いを行いました。
  - ① 生活科の授業を参観して
 

タブレット活用が1年生でも行われていることに保育園・幼稚園の先生方は驚いていました。児童の学び方が大きく変化していることについて研修を深めました。

また、主に幼稚園・保育園の取組と、小学校の生活科の共通点について協議しました。
  - ② スタートカリキュラムの改善に向けて
 

各小学校の入学式から1週間のスタートカリキュラムを活用した取組の報告がありました。

また、それぞれの園や学校での取組について情報交換を行いました。

利根町のよさは、コンパクトな町の利点を生かして、5つの幼児教育施設と3つの小学校が力を合わせて子どもたちの成長を応援できるところです。令和5年度には小学校が1校に統合されるため、保幼小の円滑な接続は、ますます進展するものと期待が膨らみます。

## 子どもの育ちをつなげる「保幼小連携」について

### 〈取組の概要〉

下妻市では年3回「保幼小連携協議会」を実施し、市教育委員会幼児教育担当者、家庭教育担当者、全保育園、幼稚園、認定こども園の園内リーダーや、小学校の接続コーディネーターが参集し、意見交換や情報共有ができる場がある。そこで、相互理解のもと教育内容の改善につなげる取組が行われている。これまでの取組は、小学校の行事に参加するという交流が多かったが、児童や小学校教員が保育参加や参観をし、幼児期の育ちや経験が小学校教育につながる姿を捉えられるような交流を行っている。

〈参加者〉公立・私立保育園6名、公立・私立幼稚園17名、私立認定こども園3名、小学校18名、教育委員会5名 合計49名

### ◆「保幼小連携協議会」

市指導課指導主事より、特別支援教育についての講義の後、就学について、幼児教育施設と小学校の捉え方や就学後の園児の様子を含めた情報など、保育と教育をつなげるためのグループ協議を行った。

#### 協議における主な意見

##### ○幼児教育施設職員から

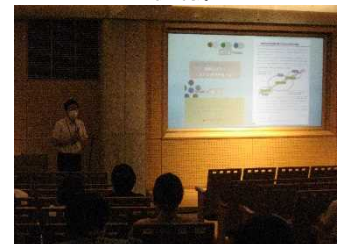
- ・個別の教育支援計画の形式、作成の仕方について知ることができた。
- ・小学校入学後の心配な点があったが、小学校の様子を知ることができ安心できた。
- ・小学校での姿や活動を幼児教育施設の職員が知ること、就学に向けて日々の活動のヒントになった。
- ・就学前の園児の育ちや気持ちを伝えることができた。

##### ○小学校職員から

- ・同じ小学校区で、気になる子について、入学前後の姿の情報を相互に共有することができ、大変参考になった。
- ・情報交換したことをもとに、今後も保育園・幼稚園・認定こども園との交流を計画し実施したい。
- ・入学前に一緒に活動をすることで、園児の就学への不安軽減につなげたい。

##### ○見えてきた課題

- ・成長の連続性のために、双方の姿や活動を言葉で伝え合うだけでなく、実際に参観し合う必要性を強く感じた。
- ・一人一人の特性を理解し、必要な支援をしていくには、幼児期の支援を参考にしながら小学校での支援計画を作成する必要があると思った。



#### ◆「秋フェスティバルにようこそ」～1年生を招待～

- ・幼稚園側の遊びを中心とした活動に、1年生が参加をした。子供達が共通の目的に向かって、友達と相談したり協力したりしながら遊びを進め、楽しむ姿を小学校教員に観てもらった。



#### ○小学校職員から

- ・園児でも友達と話し合っ、遊びを発展していることに驚いた。
- ・幼稚園の先生が、手伝っていることが多いと思ったが、様々な道具を使って、お店や品物を作っていたことが驚いた。
- ・お店で自分の役割を理解し、遊びのルールを守っている姿に感心した。

#### 〈まとめ〉

- ・保幼小で意見交換や情報共有ができ、就学前後の子供の姿を知ることができた。
- ・保育園、幼稚園、認定こども園からの働きかけを多くし、保育参観をもっとできると良い。
- ・幼児理解のため、年長児と1年生の担任が情報交換できる時間を確保すると良い。
- ・今後、相互のカリキュラムについて、一緒に検討していくと良い。



## 筑西市保幼小連絡協議会の運営

～相互参観・情報交換会・研修会等の企画・実践～

筑西市保幼小連絡協議会事務局は、幼児教育施設と小学校が情報共有し、相互理解を深めながら、幼児教育の振興並びに会員の連携・親睦を図ることを目的として企画・運営している。

**役員** 幼児教育施設役員 5名（私立・公立含） 小学校 校長 1名  
**会員** 筑西市内幼児教育施設 27園 全職員 筑西市内小学校 27校 全職員  
**事務局** 筑西市教育委員会 指導課



## ■年2回の役員会開催 「年間を通じた活動の見通しと改善点等の確認」

## ○ 第1回役員会の内容（令和4年4月6日）

- ・内容 役員決定、会則や推進資料確認、年間計画の提示と昨年度の反省。

役員は、公立園等から1名、私立保育園から2名、幼保連携型・幼稚園型認定こども園から2名、小学校長から1名、計6名。

## ○ 第2回役員会の内容（令和5年3月10日）

- ・内容 事業についての経過報告、保幼小連絡協議会役員の見選考、研修会予定確認。

## ■年3回の研修会実施 「保幼小接続に関する取組の充実に向けた研修会」

## ○ 第1回研修会の内容（参加者：幼児教育施設関係者）

- ・期間 令和4年5月から7月頃まで（各学校と市教育委員会で調整。）

## ・研修内容

授業参観（各幼児教育施設から参加。）

「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「小学校入学期～1学期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を明確にしたうえで、小学校1年生の授業を公開する。

**協議・情報交換会** 接続の在り方の改善点について、管理職、1年生担任が話し合う。

## ○ 第2回研修会の内容（今年度は園内リーダー対象。）

- ・日時 令和4年7月26日

## ・研修内容

個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成について（筑西市教育委員会 指導課）

個別の教育支援計画の活用事例

（幼保連携型認定こども園 たけのこ保育園 尾見泰延氏）

## ○ 第3回研修会の内容（参加者：小学校関係者）

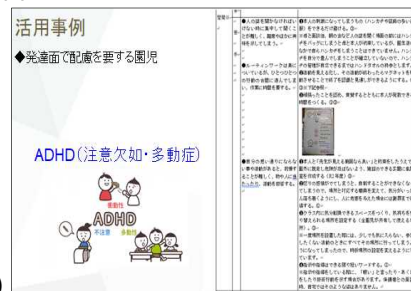
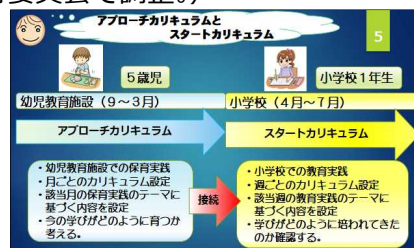
- ・期間 令和5年1月から2月上旬（各幼児教育施設と市教育委員会で調整。）

## ・研修内容

保育参観（各学校から1名限定参加。）

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「幼児期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を柱に情報交換することで、「架け橋期」の教育を充実させる。

**情報交換会** 新学齢児について情報交換する。



保幼小の円滑な接続のためには、組織的な取組の体制づくりが大切である。今後、「幼保小の架け橋プログラム」実施に向けて、「基盤づくり」から「検討・開発」に取り組む必要がある。



## 幼児教育施設園内リーダーや保幼小接続コーディネーターの 取り組みについて

### 取り組みの概要

保幼小が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう相互参観を実施。保育者は近隣の小学校を、小学校教員は近隣の幼児教育施設を参観することで、幼児教育と小学校教育の相互理解を図る。また、児童と園児の交流の場を設定し、子供同士の自発的な関わりを育む。

### 保育参観・授業参観

○参加者：各小学校区にある幼児教育施設の先生方

各小学校の1年生担任、または特別支援教育コーディネーターの先生方

○環境設定と児童の様子

- ・ 前面黒板側に掲示物が少なく、正面がすっきりしている。
- ・ 廊下の作品掲示に工夫がある。(工夫したところ、頑張ったところが記入され、先生のメッセージも添えてある)
- ・ ロッカー等学習用具を片付ける位置が決まっていて、整理整頓が行き届いている。
- ・ その時間の学習の流れが示され、児童が見通しを持って学習に取り組んでいる。
- ・ ICT 機器が効果的に活用されている。(1人1台端末、大型テレビなど)
- ・ 発表・発言している人の方に体を向けて話を聞いている。
- ・ 意見を発表する時は「はい」と返事をしてから発言する。
- ・ 積極的に挙手をする姿が見られ、担任は全ての考えを受け入れ共感している。
- ・ 机上に教科書やノートを置く位置が統一されている。

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 園での経験を重ね、安心感と期待感をもって入学できるよう努めるとともに、幼小接続の重要性を実感した。
- ・ 「遊びの中で学ぶ」を意識し、語彙力の向上や自己発揮に期待できることを継続していく。
- ・ 就学までに育てたい10の姿やアプローチカリキュラムの見直し等今後の課題について話した。

### 幼児と児童の交流

○活動内容

- ・ 1・2年生の生活科の校外学習として歩く会を実施。学校近くの幼児教育施設に隣接する公園で園児と触れ合う。
- ・ 幼児が歩いて近隣の小学校を訪問し、保幼小交流を深める。

### 今後の予定

○就学時健診に向けての情報共有や、入学前の新入児童情報交換会の実施。

○小学校において、1年生と入学予定の幼児との集会を行い、学校の様子を紹介する。

### まとめ

コロナ禍で実施できなかった交流等も段階的に取り入れながら、保幼小交流をより深めていき、よりよい接続関係を築いていきたい。また、年度末の引き継ぎについては特に慎重に行い、しっかりと情報共有を図る必要がある。

## 保幼小中連携・接続推進のための保育と授業の相互参観 － 0～15歳の学びをつなぐ交流と共有を目指して －

『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（令和4年3月31日 文部科学省）』では「義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間（架け橋期）を、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期」としつつ、「0～18歳の学びの連続性」にも配慮することを示している。高等学校を有しない本町では、中学校卒業の15歳までに、自立して生きるための学力と社会性を育むことを目標としている。この目標に向かって、架け橋期を中心に据えながら、15年間の学びの連続性に配慮した取組を行うこととした。保幼小の相互参観に留まらず小小、小中、保幼中の連携・接続も積極的に推進し、学びをつなぐ交流と共有を進めている。

<b>参加者</b>	私立こども園4名、小学校5名（保幼小中連携・接続推進事業担当校長も含む）、中学校4名、教育委員会事務局3名、家庭教育支援員7名
<b>準備等</b>	アプローチカリキュラムの実施状況等の共有、スタートカリキュラムの再周知（3月） 保幼小中連携・接続推進協議会、家庭教育支援推進協議会同時開催（5月） 保育と授業の相互参観（6月、9月、12月） 第1回保幼小中連携・接続担当者会議の開催（7月） 保幼小中連携・接続研修会の開催（8月、幼保小の架け橋プログラムについて） 第2回保幼小中連携・接続担当者会議の開催（2月）

### ■ 授業参観、保育参観

- ・各園、各校の参加人数を限定して実施
- ・全戸訪問で就学前から関わりのある家庭教育支援員も参観
- ・参観後は研究協議を行わず、意見・感想を事務局で集約し、後日、オンラインで研修会を実施
- ・振り返りシートは、こども園、小学校、中学校それぞれの参観の視点を記載したものを使用



### ■ 担当者会議（オンライン開催）

- **小学校での授業参観において挙げた意見・感想**
  - ・自分の意見を伝える力について幼児期からの積み重ねを感じた
  - ・特性によって工夫は必要だが、やはり可視化は効果的だと感じた
  - ・グループで話合うことの段階的な育成が必要だと感じた
- **中学校での授業参観において挙げた意見・感想**
  - ・「自ら…」という主体性を段階的に育む必要を感じた
  - ・「○○さん」などの呼称について幼児期から考えていく必要がある
  - ・ICTに慣れることについて疑問がたくさんあるので保幼小で協議していきたい



本町の保幼小連携・接続の実践は、令和3年3月に策定した「五霞町版保幼小接続カリキュラム（アプローチカリキュラム＋スタートカリキュラム）」を中心に据え、相互参観、担当者会議、夏季研修、情報交換会、家庭教育との連携等の取組と関連させながら推進している。今回は、相互参観について紹介をさせていただいたが、どの取組も相互に関連させることで効果を発揮するものである。「架け橋期」と「学びの連続性」の意図を全員で共有し、自立して生きるための学力と社会性を育てていきたい。

## 幼児と児童のオンライン交流

上小川小学校と頃藤保育所の実践（大子町）

第1学年生活科では、幼稚園や保育所の幼児を招待し、一緒に遊ぶという学習内容がある。そこで、本校では、近隣の保育所との交流会を行ってきた。実際に保育所に出向き、歌やダンスを披露し合い、小学生による読み聞かせを行った。さらに、班に分かれて保育所の幼児との遊びを通して交流を深めてきた。しかし、コロナ禍になってからは、実際に出向くことが難しく、オンラインでの交流に切り替えている。

**参加者** 大子町立上小川小学校1年生 8名、大子町立頃藤保育所 9名

**準備** オンラインに必要な機材類、発表で使うもの（楽器類、ダンス用CD）

### ■ オンライン交流の実践

- ねらい
  - ・ 幼児期に育まれた資質や能力の小学校生活への円滑な接続をめざす。
  - ・ 児童の主体性・表現力の育成、児童・幼児の発達段階に応じたコミュニケーション能力向上の機会とする。
  - ・ 小学校教員の保育理解並びに小学校・保育所相互の情報共有の機会とする。
- 場所 大子町立上小川小学校、大子町立頃藤保育所
- 生活科2時間扱い
- 活動内容
  - ・ 1年生からの発表
  - ・ 保育園児からの発表



### ■ 実践をもとにした検討

- **幼児教育施設保育者の意見から**
  - ・ 3月まで一緒に過ごしていた一年生の姿を見て喜んでいました。
  - ・ お礼に遊戯を発表し、見てもらうことの嬉しさを感じながら、堂々と踊ることができた。
  - ・ 就学児は、小学校に入学する不安が減り、楽しみにしていた。
- **小学校教員の意見から**
  - ・ 自分の弟や妹、よく知っている幼児の前だったが、恥ずかしがらずに堂々と発表することができた。自分たちが成長した姿を見てほしいという思いがあった。
  - ・ 保育所の頃に小学生と交流したことを覚えている児童がおり、自分の成長が実感できたようだった。
  - ・ オンラインでの交流会だったため、発表の仕方（声の大きさや動き）の面で工夫することができた。

- ・ 保育所から小学校へ円滑なアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムをつくっていく。
- ・ 上小川小学校区の保小連携の「ねらい」「活動内容」を明確にしていく。

## ICT を活用した保幼小交流

### 小学校（保育所・幼稚園・認定こども園）の実践

コロナ禍においても、保幼小の交流を継続していけるように、ICT を活用した保幼小の交流を実践した。第1学年の生活科の中で、来年度の新入生のために学校紹介の動画（Google スライドを録画）を作成し、それを基に感想をオンラインで伝え合うという取り組み。

**参加者** 私立幼：40名、私立こ：6名、私立保：30名、小学校：80名

**準備** 事前の準備として、幼児教育施設に動画を視聴するための PC やプロジェクターなどの環境が整っているかを確認し、不足している機器は、学校から持参して補った。実践した小学校では、毎年 30 箇所近くの幼児教育施設から新入生を迎えているため、卒園生の多い幼児教育施設 3 園を対象として実施を行った。

#### ■保幼小交流① 「知ってほしいな！〇〇小学校」

来年度入学する年長児に、小学校の楽しさを知ってもらうため、生活科の学習の中で、グループごとに3分間の動画を作成した。内容は児童が主体的に話し合い、「1年生の教室」「図書室や音楽室」「学習の様子」「登校と下校」「給食の様子」「遠足」の6つとした。スライド作りでは、GIGA スクール端末を使用して児童が写真を取り、スライドに貼り付けた。（1年生では、文字入力が難しいため、まとめる作業は教師が補助。）スライドの紹介文は児童が考えて、一人ずつ読みながら録画をした。作成した動画を、近隣の私立幼稚園と認定こども園で視聴してもらい、後日 Zoom で交流会を開いて感想を伝え合ったり、園児の質問に答えたりした。

活動を通して、動画を作成することで、児童自身が学校生活をじっくりと振り返り、入学してからできるようになったことを実感することができた。交流会では、司会役や質問受付係などの役割を担うことで、児童の主体性を高めることができた。



児童と作成したスライドより

#### ■交流後の振り返り

##### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・「学校の様子がよく分かって、入学するのが楽しみになった。」と、年長児が安心感をもったことがよかった。
- ・Zoom は研修等で使用する機会が多く、交流が容易にできた。
- ・ICT 機器が揃わなくても、掲示物（学校すごろく）や手紙の交換で交流させてもらえて、園児がとても喜んでいた。

##### ○小学校教員の意見から

- ・園児と交流し、上級生としての意識を高めることができた。
- ・オンラインで実施したことで、子どもたちが園や学校を行き来する負担がなく、安全に交流することができた。
- ・交流会をきっかけに、幼児教育施設と連絡を取り合う機会ができ、卒園生の情報交換などもできた。日常的に連絡を取り合えるような関係作りが大切だと感じた。



今回の実践を基に、普段の授業の様子をオンラインで参観し合うような、日常的な取り組みにつなげていくことで、相互の教育についてより理解を深めることができると考える。また、コロナ禍に関係なく、生活の状況に応じて、長期的・継続的に実践していきたい。



## オンライン学校見学

～1年生が小学校のことを教えてくれました～

- ・新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、オンラインを活用し学校見学を行う。
- ・幼稚園の年長児と1年生を Zoom でつなぎ、学校の生活の流れや、施設の紹介を1年生の担任+1年生の児童たちが行う。

**参加者** 公立幼…年長児：年長児担任  
小学校…1年生：1学年担任

**準備** ・スクリーン ・プロジェクター ・PC ・HDMI ケーブル  
※スピーカーがあった方が良い



1年生担任が進行を務め、1年生が分担し園児に向けて、ランドセルのしまい方や、傘のしまい方、筆箱の中身などについて、実物や活動の様子を見せながら説明する。

1年生担任がタブレットをうまく活用し、園児が実際に見ているような視点で配信を行う。



教室の中だけではなく、靴箱や廊下、トイレ等についての説明をしたり、園児からの質問タイムなども設けたりと、就学後の緊張不安の解消につながるような交流を行う。

遊戯室にスクリーンを設置し、年長児全員でオンライン交流が図れるようにする。



プロジェクターにプラススピーカーもあると、音声により聞き取りやすい。

質問タイムの際には PC の前に園児が移動して質問する。

### ○教育委員会 指導室の意見から

- ・1年生が頑張って説明をする様子が伺え、幼・小どちらにも良い経験ができたのではないかと。
- ・幼・小どちらも担任が上手に子どもたちのフォローをしており、こまやかな配慮や、子どもたちの接続を推進していきたいという意図が感じられた。



## 幼小オンライン懇談会

～幼児・児童についての情報交換会～

- ・1学期に幼稚園教諭が小学校授業参観を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、幼児・児童についての情報交換を行うことができなかった。
- ・感染状況を踏まえ、オンラインを活用し懇談会を行う。

**参加者** 幼稚園…幼稚園長：年長担任：前年度年長担任  
小学校…生徒指導主事：1学年担任(3名)：特別支援教育コーディネーター

**準備** ・PC ・Zoom アカウント



1年生全体の様子や、就学した児童についての個々の配慮点(友達関係・保護者について・アレルギーの対応他)等の情報交換を行う。アレルギー対応については、食事面の配慮だけではなく清掃時の配慮についても情報共有をすることができた。



特別支援教育コーディネーターの小学校教諭も参加し、次年度に入級が予想される幼児についても情報共有を図る。各々の特性や、配慮すべき点などについて小学校側から幼稚園担任に質問し、事前の対応を検討する等のきっかけへとつながった。

### オンライン懇談会を終えての感想

#### ○幼稚園側の意見から

- ◎以前まで行っていた懇談(直接会って行う)と変わりなく情報交換ができた。  
職員同士の話し合いならば移動時間をかけずに行えるので Zoom を活用していきたい。
- ◎今後は子ども同士のオンライン交流を実施していきたい(学校探検や授業体験等)
- ▲園内に Zoom 接続環境が整っていないため、庁舎まで PC を取りに行く手間がかかる。

#### ○小学校教員の意見から

- ◎幼稚園側の意見と同様に、以前までの懇談会と変わりなく実施することができた。  
スムーズに行うことができ、予定通り時間内に終わることもできた。
- ◎日程調整がやすく手軽に懇談の時間が設けられる。
- ▲今回はスムーズに話し合うことができたが、初対面でいきなりオンライン懇談会だと話が弾まない可能性も考えられる。

## つなぎっぱなしオンライン交流

～負担感のないオンライン交流の実践～

- ・小学校・こども園共に負担感のない交流を模索してみようと考え、試行的に実施する。
- ・小学校1年生の様子（朝の会～1・2時間目～中休み）を常時 Zoom 配信する。
- ・こども園では、子どもたちが好きなタイミングで小学校の様子を見ることができる。

**参加者** 公立こ：主に年長児 20 名、小学校：1 年生 13 名

**準備** ・TV ・PC ・HDMI ケーブル ・スピーカー

## ■「オンライン交流コーナーの設置」



子どもたちがあやまって手を触れないように TV の後ろに台を置き PC をセットする。

大勢で同時に参加できるように、家庭用の TV をモニターにする。

外付けのスピーカーは必須。  
オンラインで交流を図る場合には、できれば集音マイクもあると良い。



好きなタイミングで見られるように、通路部分にオンライン交流の場を設定した。  
途中、年長児だけではなく、他の年齢の子も興味深そうに画面を見る様子が見られた。



休み時間の交流では、学校でどんな勉強をしているのか、給食のメニューは何か、トイレはどうなっているのかななどの質問をし、1年生や担任の先生から教えてもらった。

## ○こども園 子どもたちの感想から

- ・小学生に質問するのが楽しかった。早く小学校に行きたくなった。
- ・トイレの様子や給食の白衣を見ることができて良かった。

## ○こども園 保育者の意見から

- ・負担なく取り組むことが出来た。設備充実が必要。(スピーカー・PC は役場の物を使用)

## ○小学校教員の意見から

- ・こども園内に、常時オンライン交流環境があれば交流の幅が広がるように感じる。
- ・教師が質問に答える場面が多かったが、小学生が主体的に答えられるようにしていきたい。

## 幼児教育施設と小学校との連携・接続の推進

### ～接続カリキュラムの改善をとおして～

保幼小接続についての本市の課題としては、施設間での連携が十分にとれているとはいえないことが挙げられる。そこで、保幼小の連携を推進するため、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの改善をとおした研修会を企画した。

**参加者** 公立幼児教育施設：1名、私立幼児教育施設：6名、小学校：11名

**準備** 当初は参集型で実施する予定であったが、感染症対策のため zoom を活用したオンラインでの実施に切り替えた。これに伴い、各施設が作成しているカリキュラムは事前にデータで提出してもらい、当日までに各施設にデータ送付する形で資料の交換を行った。また、講話の資料についても当日までにデータで配付した。

#### ■講話「接続カリキュラム改善や保幼小連携の進め方について」

茨城県幼児教育アドバイザー派遣を活用し、「茨城キリスト教大学 文学部児童教育学科 教授 飛田 隆 様」を講師として、40分間の講話を行っていただいた。「茨城県保幼小接続カリキュラム」について詳しく解説していただいた。

##### ※参加者の感想

- ・アプローチカリキュラム作成では、「小学校の先生に分かりやすく、イメージしやすい言葉で書いていくこと」「保育活動のどの部分で何が育っているのか・育てようとしているのか」など、子供の行動や活動を言語化し、伝えることの必要性を感じました。(幼児教育施設担当者)
- ・幼児教育における「遊び」の重要性を再確認しました。スタートカリキュラムは、幼児教育施設でどのようなことが行われているかよく知ったうえで作成していきたいと感じました。(小学校担当者)

#### ■グループ協議「接続カリキュラムの見直し等について」

参加者を中学校区ごとの4グループに分け、それぞれが作成しているカリキュラムについての説明等を行い、考え方を共有したり、協議しながら改善点について話し合ったりした。

##### ※参加者の感想

- ・小学校、他園との情報交換で自園に足りていなかったものが明確になりました。接続について重なり合う部分を作ってあげることができるように、連携を深めていけたらと思いました。(幼児教育施設担当者)
- ・さまざまな具体的なお話を伺うことができ、保育園・幼稚園での学びの積み重ねを引き受ける体制、接続カリキュラムのひな型などの課題がみえ、保幼小の重なりを意識した取組を行うことが大切だと思いました。(小学校担当者)

今回の研修会をとおして、改めて保幼小接続についての重要性と現状での問題点に気づくことができ、連携・接続に向けての意識が高まった。今後は、市統一でカリキュラム作成のひな型があると連携を進めやすいという意見があり、市として検討を進めていきたい。



## 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための研修会 (令和3年度)(オンライン研修)

幼児教育施設及び小学校・義務教育学校の職員を対象とした幼児教育と小学校教育の接続に関する研修会を開催することにより、つくば市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進する。

**参加者** 公立幼：16名、小学校：27名（小学校2校は、学校行事のため、欠席）  
義務教育学校：4名 ※コロナ禍のため、私立幼、私立保は、今回は対象外とした。  
市町村教育委員会関係者（幼児教育担当者）：2名

**準備** 幼稚園：アプローチ・カリキュラム（PDFデータ）  
小学校・義務教育学校：スタート・カリキュラム（PDFデータ）

### ■研修内容 「講話」

「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について」

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室 指導主事 中庭朋子先生

幼児教育と小学校教育との接続では、子供同士や保育者・教員の交流は各幼児教育施設と小学校とで進んできているが、カリキュラムの接続が十分であるとは言えない状況である。遊びや生活を中心とする幼児教育と、教科等の学習を中心とする小学校教育とでは、教育の内容や方法が異なるため、スムーズに適応できない児童がいる。保育者は、「小学校において、今後幼児がどのように育っていくのか」、小学校の教員は「子供たちが幼児教育施設でどのように育ってきたのか」を見通した教育課程の編成や実施が求められる。

### ■協議における主な意見（グループごとの協議）

視点

- ・保幼小接続カリキュラムについて
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

#### ○ 幼児教育施設保育者の意見から

幼稚園は、5歳児の12月までに、小学校に親しみがもてるように、小学校との交流、見学の機会を設けている。また、生活習慣が身に付いているか、自分たちでできるようになっているか見直している。友達と話し合ったり、協力し合ったりすることで、表現する楽しさを味わえるような活動を行っている。

1月～3月は、生活に見通しをもち、時間を意識して行動するような手立てをしている。また、1年生になることへの期待をもって生活し、年長児として自信をもって園生活が送れるように環境を整えている。

#### ○ 小学校教員の意見から

小学校は、入学した第1週は、学校の環境に慣れ、教師や友達と遊びや生活を楽しんだり、幼児期の体験を生かし、「できる」という気持ちを支えにして、学校生活に必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、安心感をもって活動や学習に取り組んだりできるように支援している。



幼児教育と小学校教育の円滑な接続についての講話を聞いたり、協議を行ったりしたことで、幼児教育施設や小学校での現状を再確認することができた。また、市としては、保幼小の架け橋プログラムの実施に向けて、幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善のための取組を推進していく。

## 県幼児教育アドバイザーを活用した幼児教育合同研修会 ～オンラインによる接続カリキュラム検討について～

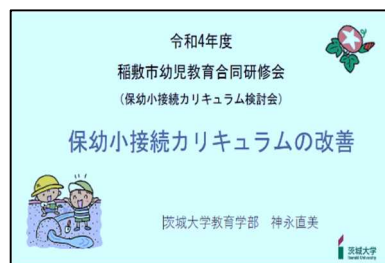
**概要** … 新型コロナ禍の中、2年間開催できなかった市指導室主催の幼児教育合同研修会を県幼児教育アドバイザーを活用して夏季休業中に実施した。当初、集合研修を予定していたが、第7波の感染拡大によりオンライン研修に変更となった。2年間、各中学校区のご幼保小連携会議や連携事業の実施状況に差が出て相互参観、相互交流が十分に行われないう現状がある。講師講話をもとに中学校区毎に接続カリキュラムの検討を行い、協議で課題となった点については継続して検討し、改善を図るよう促した。

**参加者** 公立幼：3名、公立こ：3名、私立保：2名、小学校：9名、計17名

**準備** 各園のアプローチカリキュラム、各小学校のスタートカリキュラム、茨城県保幼小接続カリキュラム、円滑な接続に関する事前アンケートの集計資料、講話資料

### ■ 県幼児教育アドバイザー講話「保幼小接続カリキュラムの改善」 茨城大学教育学部教授、同附属幼稚園長 神永 直美先生

- 1 これまでの幼保小連携接続の効果と課題
  - 2 カリキュラムをつなぐために「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料」(初版から)・文部科学省
  - 3 協議に向けて
- \* 架け橋期のプログラムの必要性や2年間の見通しをもって実施していくこと、ご幼保小連携の重要性について理解することができた。



### ■ 中学校区毎の接続カリキュラムの改善についての協議

- **協議の主な観点**
  - ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し
  - ・円滑な接続のための情報交換
- **幼児教育施設保育者の意見から**
  - ・スタートカリキュラムを理解し、今後どう小学校につなげていくかを考えていきたい。
  - ・接続カリキュラムについての検討をきっかけに日々の実践や園児の学びを振り返ることができた。
- **小学校教員の意見から**
  - ・実態に合わせて合科的な指導を取り入れたり、モジュールを活用したり、カリキュラムを柔軟に考えたい。
  - ・小1プロブレムへの対応には小学校での安心感が大切だと分かった。
  - ・園の先生方が小学校教育を意識して育ててくれていると分かった。改めて小学校生活が始まるスタートにならないよう、学びが継続されるように心がけたい。
  - ・「しんとね教育プラン」のアプローチ&スタートカリキュラムの様式を見直すか、新しい形に変えるか話題になった。地域の子供たちに合った接続カリキュラムになるようにしたい。

中学校区連絡会で作成した教育プラン



**まとめ** … 新型コロナ禍により中学校区のご幼保小中連携会議や連携事業が停滞していたが、講話から「架け橋プログラム」について理解を深めることができた。また中学校区の園と小学校の教員がオンライン上ながら顔を合わせて接続カリキュラムについて具体的に検討できたのは大きな成果だった。事後アンケートで全員が中学校区毎の協議が有意義だったと回答している。検討しきれなかった事項は、継続して協議していくことを確認した。



## 幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための研修会

～オンライン動画配信による研修～

### 概要

保幼小の円滑な連携・接続を推進することを目的とし、市町村の取り組みの紹介・幼児教育に関する講話を行い、研修会終了後、参加者への幼児教育施設と小学校との交流についてのアンケートの実施をした。

**参加者** ・幼児教育施設 9園 20名 ・小学校 5校 21名  
 ・教育委員会 5名 ・合計 46名

**実施方法** ・新型コロナウイルスの感染拡大のためオンラインによる動画配信

### ■講話（動画配信）「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 就学前教育・家庭教育推進室 中庭朋子指導主事の協力により、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた講話の動画を作成し、各園と各小学校に配信した。

研修の中で、東京都教育委員会作成の動画「幼児教育と小学校教育9年間の学びをつなぐ」を視聴し、他県の保幼小接続の実践について学ぶことができた。



研修会（動画視聴の様子）

### ■研修を終えてアンケートより

- 幼児教育施設保育者の意見から
  - ・幼児教育から小学校教育へ切れ目なく円滑に接続するために、お互いの教育のつながりをイメージし、幼児の実態に応じて指導を計画することが大切だと感じた。
  - ・つながりを大切にし、幼児教育が終わるのでなく小学校教育へ接続していく、そしてその先までつながっていくことを学んだ。
  - ・幼児教育と小学校教育の相互理解・連携を深め、一人一人の子どもたちの学びや育ちを繋げていく重要性を改めて学んだ。
- 小学校教員の意見から
  - ・幼児教育と小学校教育の双方の取り組みの理解が必要だと感じた。
  - ・幼児教育で培われた学びに対する芽生えを、どのようにして小学校で育て、学習に向かわせていくかの重要性を、職員間で共有すべきだと感じた。
  - ・保幼小で連携しながら、学習、生活の両面から円滑な接続が大切だと再認識した。

学びの連続性を保つ接続カリキュラムを実施することが重要である。今後、先生方の交流はもちろん、幼児と児童の交流を積極的に行うとともに、研修会の開催等により連携接続の充実を図っていくことが大切である。

## 幼保小の架け橋「幼児教育と小学校教育接続のための協議会」

～担当者部会の実践から～

本協議会は、市内幼児教育・保育施設(87園)と小学校・義務教育学校(34校)で構成し、管理職部会と担当者部会を設けている。さらに、全体組織を5ブロックに分け、連携の効率化を図っている。本年度は、管理職部会を7月に、担当者部会を9月に開催した。

**参加者** 公立幼：7名、私立幼：3名、公立幼型認こ：3名、私立幼型認こ：4名、公立連携型認こ：2名、公立保：11名、私立保：18名、小学校・義務教育学校：33名  
**準備** 参加人数が多いため、全体を二分し、A・Cブロック9/2、B・D・Eブロック9/28に開催することで、密にならないよう工夫した。  
 グループ協議は、同じブロック内で班編成を行い、どのグループにも小学校の担当者、幼児教育・保育の公立施設と民間施設の担当者がそれぞれ入るよう工夫した。

### ■講 話

講師は、市総合教育研究所幼児教育担当 齊藤 妙 指導主事。講話内容は、「幼保小の架け橋プログラムについて」と「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」である。文科省資料や7月に開催した管理職部会での講師、茨城女子短期大学副学長 助川 公継 先生の講話内容を担当者に紹介し、特に、接続に向けては、小学校側からアプローチするよう強く促した。



### ■グループ協議

幼児教育から小学校教育への円滑な接続に向けた具体的な取組について協議した。

#### ○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・このようなことは交流に相当しないと思わずに、互いの施設や子供たちを知ることから始める。
- ・小学校の先生方に、保育や子供の様子を見ていただきたい。
- ・保育所から小学校への授業参観を増やす。
- ・保育者側が小学校を意識した生活や活動を取り入れることができるように小学校の現状把握に努めることが大切。



#### ○ 小学校教員の意見から

- ・授業参観後の話し合いなどはしていないので、実現できたらいいと思う。
- ・小学校の紹介DVDを幼児教育施設に渡し、入学への意欲を高められるようにする。
- ・引継ぎの担当者が変わるなどして情報共有ができていない部分があったため、引継ぎ後、さらに学校で情報を共有していく必要があると感じた。

・昨年度、コロナ禍でできなかったグループ協議が実施できたことで、幼保小接続の必要性を参加者全員がより深く実感することができた。グループ協議では具体的な交流内容や時期について確認する担当者も見受けられた。

・公立の施設及び学校からは、10割近い参加があった。また、民間施設からも4割を超える参加があった。学びの連続性を確保するため、今後も積極的な参加を推進していきたい。

## 保幼小接続のための連絡協議会

教育長の保幼小接続の重要性の講話から保育者と小学校教員がスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムを持ち寄って実践の成果や課題等を協議する。

**参加者** 保育者 16名 小学校教員：11名

**準備** 各幼児教育施設のアプローチカリキュラム、各小・義務教育学校のスタートカリキュラムをグループ協議の人数分準備  
教育長への講話依頼、日程確認  
各小・義務教育学校学区と幼児教育施設が同じグループになるようなグループ編成

### ■ 教育長講話 「接続期の教育の重要性」

教育基本法の位置づけ→第11条・・・幼児教育充実  
幼児教育施設と小学校の違い  
就学前に身に付けさせたい力  
小学校に期待すること  
→教育は小1から始めるとの思い込み脱却  
幼児教育施設に期待すること  
→4月からの生活リズムの練習



### ■ 協議における主な意見

就学に向けて保育者から心配していることの情報交換

#### ○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 就学に向けてできていた方がいいこと
- ・ 園で行っているアプローチカリキュラムで力を入れてほしいこと
- ・ 小学校での授業内容や進め方、幼児指導要録の活用について



#### ○ 小学校教員の意見から

- ・ 幼児教育施設に通園・通所するときには、傘をさす機会がないので、雨の日の登校時、昇降口で傘をしまうのに困っている卒園児(1年生)がいる。
- ・ オンラインでの交流をどのようにしていくかを、学区内の幼児教育施設と協議したい。
- ・ フリートークの中で疑問点を話し合ったり確認しあったりしたい。お互いなかなか時間をとって話せる機会が持てないので、とにかく「話したい」。

保育者は、年長児の小学校での姿が気になっているので、小・義務教育学校に学校公開等の予定の案内を送付のお願いした。保育者、小学校教員等両方で情報交換を含めて協議する時間が欲しいという声が聞かれたので、協議時間を十分とれるような日程にする。



## 「保幼小接続管理職部会」「保幼小接続担当者部会」の開催

～令和4年度テーマ「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」～

幼児教育から小学校教育への円滑な連携・接続と、接続期の教育の更なる充実に向けた取組への一助となるように、令和元年度より、市内各幼児教育施設、小・義務教育学校の管理職を対象にした「保幼小接続管理職部会」と、保幼小連携・接続への取組みを中心になって行っていく担当者を対象にした「保幼小接続担当者部会」を実施しています。令和4年度は「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」をテーマにそれぞれの部会を開催しました。

### 参加者

【管理職部会】公立幼：4名 私立幼：5名 公立保：4名 民間保：17名 小・義務教育学校：18名

【担当者部会】公立幼：4名 私立幼：7名 公立保：4名 民間保：13名 小・義務教育学校：18名

### 配慮事項

- 【管理職部会】行事等での連携ができるように、年間行事計画を持参してもらった。さらに、「担当者部会」で担当者同士が詳細を決められるように、日程設定を配慮した。
- 【担当者部会】他園、他校とカリキュラムの交換を行ったり、講義を受けたりしながら、自園、自校のカリキュラムの見直しができるように、接続期のカリキュラムを持参してもらった。

### ■「管理職部会」「担当者部会」の内容

#### 【管理職部会】

講 話：「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」

講 師：県教育庁総務企画部生涯学習課 就学前教育家庭教育推進室 中庭 朋子 指導主事

情報交換会：中学校区ごとのグループに分かれ、幼児教育施設と小学校とで交流できる行事の確認等を中心に情報交換を行った。

#### 【担当者部会】

講 話：「幼児期の育ちや経験を生かした学校生活のために」

講 師：茨城女子短期大学 副学長 助川 公継 教授

情報交換会：幼児教育施設と小学校のグループと、幼児教育施設同士、小学校同士のグループでの協議会を2回実施し、子どもの姿に応じた接続期の指導を中心に情報交換を行った。

### ■「管理職部会」「担当者部会」の協議における主な意見

#### 【管理職部会】

- ・担当に任せただけでなく、管理職も積極的に関わる必要があると感じた。
- ・コロナ禍だからと諦めることなく、どんなことならできるのかという柔軟な考えをもつことが大切だと思う。オンラインを活用すればいろいろなことができるのではないかな。

#### 【担当者部会】

- ・接続期のカリキュラムに対する捉え方や、実際に作成をする際の手順を具体的に伝えてもらうことができて、参考になった。
- ・接続期のカリキュラムの作成はできているが、双方がそれを理解し、活かしあえるような子供への関わり方が必要であると強く感じた。



管理職部会  
R 4.7.13.



担当者部会  
R 4.7.29.

幼児期に育った力を小学校以降の学びに引き継ぎ、子供たちに系統的な教育を組織的に実施していけるよう、今後もコロナ禍でもできる保幼小連携の取組みを推進すると共に、接続を見通して編成・実施されているカリキュラムを更によりよくしていけるようなサポートを、教育委員会も園や学校と一緒にしていきます。



## 就学前から小学校、中学校へと切れ目のない支援

～円滑な保幼小の接続～

概要・・・子供たちの適切な配慮や支援を考え保幼小の連携と円滑な接続を図るために、講師を招聘し、学習障害に関する講義とその対応策の協議・検討を行い、課題と支援の共有・連携を図っている。

**参加者** 公立幼： 2名、公立こ： 1名、私立幼： 2名、私立こ1名  
小学校： 33名、中学校： 12名

**準備** タブレット

### ■ 合同研修会の開催

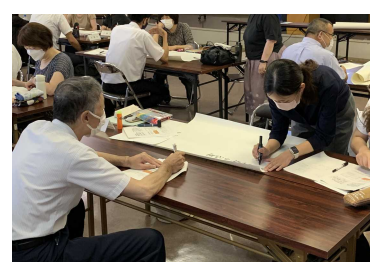
合同研修会に、茨城女子短期大学准教授 梶井 正紀先生を講師としてお招きして講義『学習障害（限局性学習性）の子供の支援を検討して』と事例検討を行った。今回の研修会は、特別支援教育の視点で、子供たち一人一人に必要な支援を考え実践することで、子供たちの不安を少しでも取り除き、小学校につなげていきたいと考えて開催した。

- 本市では、特別な配慮を要する新学齢児数が増加傾向にある。  
令和3年度 33名 → 令和4年度 43名
- 子供たちが抱える困難を早期に見取り、把握することができた。
- 本市の実態を伝達し、幼児施設保育者と小中学校教員で共有することができた。

### ■ 研修会での協議の様子

発達の段階にあわせた事例について、校種ごとにグループで対応策や支援等を協議・検討し、意見交流を行った。

- 事案に対して、幼児教育施設保育者と小中学校教員の視点では、着目する点に違いがあり、よい意見交流の場となった。
- 幼児教育施設保育者の立場からの保育的な要素の支援方法の共有は、有意義であった。



### ■ アプローチカリキュラムの共有

- 幼稚園・こども園が作成した「アプローチカリキュラム」と「できた！カード」（学年末までに育てておきたい力）等を小学校と共有し、連携を図っている。

**まとめ** 2年ぶりに合同研修会を開催でき、園と小中学校の先生方との交流の場の設定をすることができた。研修会では、それぞれの現場の子供たちの実態について情報共有しながら、必要な支援を多面的に考えることができ、今後へつながる協議を行うことができた。

# 保幼小合同研修会の実施

～幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために～

平成30年度に市主催で保幼小合同研修会を開催して以降、一堂に会しての研修会を行うことができなかった。

今年度、県幼児教育アドバイザー派遣による市への支援を受け、保幼小合同研修会を行うことにした。

保幼小の職員が参加しやすいように、夏休みに開催日を設定し、小学校区で少人数での情報交換ができるようにした。

期日	令和4年8月3日(水)
時間	午後1時30分～午後3時30分
場所	小美玉市役所小川支所
参加者	公立幼稚園 6名…3園参加/3園中
	私立保育園 4名…4園/8園
	認定こども園 4名…4園/5園
	小・義務教育学校 7名…7校/7校
	教育委員会(教育指導課・子ども課) 4名
	計25名

\* 幼児教育施設で新型コロナウイルス感染関係で、4園9名が欠席。

## 講話

講師 県幼児教育アドバイザー 茨城キリスト教大学文学部児童教育学科 飛田 隆 教授

テーマ 「幼児教育と小学校教育の相互理解について」

幼児教育における「遊びは学び」の意味、環境を生かした教育等幼児教育について詳しくお話しいただいた。

また、県の接続カリキュラムをもとに、円滑な接続のために重要な点をお話しいただいた。

参加者より

学びの質が違うので、接続カリキュラムの大切さがわかった。

幼児教育の考え方を多くの人に認識・理解してほしい。

「子どもの困っていること」を和らげられるように保幼小の連携が必要だと思った。



## 協議

### 保幼小の接続に向けての実践・問題点

小学校区ごとに5グループに分かれ、35分間の協議を行った。



#### 幼児教育施設の保育者の意見

- 小学校や他園の実践を聞き、参考になることがたくさんあった。
- 小学校の先生に幼児教育施設を訪問してほしい。園からも積極的に小学校に働きかけたい。
- コロナ禍でも、できることを考えて、交流・連携に取り組みたい。
- 園同士の横のつながりも大切。

#### 小学校教員の意見

- 小学校入学前の園での生活の様子を知ることができた。
- 幼児のころからの親との読書、お話の読み聞かせの実践はありがたい。
- 担当教員だけでなく、校内全職員で接続に取り組みたい。
- オンライン等を活用して、交流を工夫して行いたい。

## まとめ

保幼小の職員が顔を合わせて話し合ったり、講師の先生より指導をうけたりしたことで、接続のために動き出すきっかけになった研修会だった。今後、小学校区ごとに保幼小の職員や子どもの交流等がさらに行われることを期待している。市からも授業公開等の情報を提供していきたい。

## 「令和4年度茨城町保幼小接続研修会」の実施

～さらなる保幼小の円滑な接続に向けて～

- <期 日> 令和4年8月3日(水)
- <内 容> ① 県幼児教育アドバイザーによる「幼保小の架け橋プログラム」に関する講義  
② 令和3年度から導入した「茨城町版小学校入学前サポートシート」の改善
- <工夫点> ① 県幼児教育アドバイザー派遣の活用(講師:茨城女子短期大学助川副学長)  
② 園内リーダーと保幼小接続コーディネーターの連携を目指したグループ協議

**参加者** 公立幼稚園:13名、私立幼児教育施設:6名、小学校:6名、教育委員会:4名

- 準 備**
- ① 事前に用意・連絡しておいたもの
    - ・講義内容及びグループ協議内容の事前周知
    - ・小学校入学前サポートシート導入初年度における提出状況と活用状況の提示
    - ・シート導入初年度の反省に基づく改善点(質問内容、提出時期及び方法)の提案
  - ② 私立幼児教育施設への周知にあたって
    - ・町こども課及び私立幼児教育施設との日常的な連携(全園訪問や保育参観等)
  - ③ 参加者が協議しやすい工夫
    - ・保幼小接続を見据えた協議グループ設定(小学校+小学校区の幼児教育施設)

### ■ 「幼保小架け橋プログラム」に関する講義

- 参加者の感想から
  - ・就学前教育と小学校教育とでは、ねらいや目標、教育方法などたくさんの違いがあるが、まずは双方で相互理解を深めながら段差を滑らかにしていくことが大切だと改めて感じた。
  - ・架け橋プログラムについて、幼児期に遊び込んだ経験が土台となって小学校での「学び」に繋がることを改めて認識できた。子供たちの「やりたい！」に耳を傾けて保育していきたい。



講師の幼児教育アドバイザー

### ■ 「茨城町版小学校入学前サポートシート」の改善

- 園内リーダー等の意見から
  - ・回収時期を早め、卒園までのサポートに生かしていきたい。
  - ・全職員で把握することで、保護者の不安を受け止めていきたい。
  - ・提出の強制を求めていなかったため、回収に苦労していた。
  - ・幼児に対する保護者の見方がよく分かるので継続してほしい。
- 保幼小接続コーディネーターの意見から
  - ・子供たちの実態と保護者の捉え方が分かる有効な資料である。
  - ・本年度は「全員提出」の方向性になると非常にありがたい。
  - ・卒園後の引継ぎでサポートシートが活用されるとよい。
  - ・小学校の全職員にサポートシートの研修をぜひ行いたい。



グループ協議の様子

### <本実践のまとめ> ○は成果 ◆は今後の取組

- 幼保小の架け橋プログラムが出された背景や意義を保幼小の担当者が理解することができた。
- 全員提出や提出時期の変更など「小学校入学前サポートシート」の改善点が明確になった。
- 保幼小接続の担当者が相互に協議したことで、共通理解を深める貴重な機会となった。
- ◆ 接続カリキュラムの改善を図りながら、計画的に架け橋プログラムの策定を進めていきたい。
- ◆ より有効に「小学校入学前サポートシート」が活用されるよう、周知徹底を図っていきたい。



## 関係機関が緊密な連携を図り、 相互理解を深めるための合同研修会

大洗町学校教育課・こども課の取組

町内の幼稚園、保育所(園)、小学校、町担当課の関係職員が一堂に会し、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた、「大洗町幼児保育・小学校教育連絡協議会」を3年ぶりに開催した(令和4年8月24日)。臨床心理士による講話、グループ協議を通して、町内各施設の現状を把握するとともに、配慮を要する子供への関わり方等について理解を深めることができた。本町の課題である円滑な接続、特別支援教育への理解促進のための貴重な機会となった。

**参加者** 公立幼：2名、公立保：2名、私立保：7名、小学校：4名、  
こども課：3名、学校教育課：7名、計25名

**準備** 移動発達相談(こども課・学校教育課による園訪問)で得た幼児、各園の情報  
小学校の情報(特別支援学級等の現状、不登校・いじめ等生徒指導にかかわる情報)

### ■合同研修会について 講話テーマ「発達の気になる子について」

〈 講師：大洗町教育センター 副センター長(臨床心理士) 水口 進 先生 〉

#### (1) 実施の経緯

コロナ禍以前の本協議会では、接続カリキュラム等に関する研修を実施した。各園・小学校では、この研修の成果を生かし、共通理解のもと、連続性・一貫性のある教育に取り組んでいる。しかし、その一方で小学校入学後に不適応を起こす児童の事例が多く見られ、配慮を要する子供への適切な援助の在り方、特別支援教育への理解促進が課題となっていた。そこで、参集型合同研修の機会を捉え、専門家による講話とグループ協議形式の研修会を企画することとした。

#### (2) 研修のようす

講話では、ことばの発達やさまざまな障害の特徴などについて触れ、保育者や教師が、日頃、どのように関わったらよいか、具体的事例をもとにご指導いただいた。

グループ協議では、講話の内容を受け、各園、小学校の現状報告ののち、子供との関わり、保護者へのサポートで困っていること等について自由に意見交換を行った。また、講師には各グループの協議に加わっていただき、参加者からの疑問、質問に答える時間を設けた。



### ■協議における主な意見

#### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・小学校の先生からのお話を聞き、園から送り出した子供たちの様子がよく分かった。
- ・どの園も学校も、配慮を要する子供のサポートに苦慮していることが分かった。特別支援に関する研修の機会はあまりないので、大変役に立った。

#### ○小学校教員の意見から

- ・園からの情報は大変貴重である。対面式の研修に参加できてよかった。
- ・この研修をきっかけに、園、学校、町担当課でさらに連携を深められたらいいと思う。

### まとめ

○本町の児童生徒が急激に減少する一方で、特別支援教育に対するニーズはますます高まっている。これを踏まえた研修内容であり、参加者からは大変好評であった。今後も、円滑な接続、連続性・一貫性のある教育の実現のために、さまざまなテーマで合同研修会を設定し、関係職員の学び、情報交換の場としたい。



# 保幼小中接続のための合同研修会

城里町では、幼児教育施設、小学校、中学校の教職員や行政、福祉関係の職員、適応指導教室の指導員で合同研修会を行っています。城里町の子どもたちのよりよい成長を願って、様々な立場で切れ目なく支えていくことができるよう、情報を共有したり、保育・指導法等の研修を行ったりしています。令和4年度は、特別支援学校の先生を講師に迎え、特別支援に関する研修会を実施しました。

参加者 町内全幼児教育施設保育士、小・中学校教諭、適応指導教室指導員、社会福祉協議会、城里町役場福祉こども課、教育委員会指導主事 合計17名

- 準備 (1)各園、学校より提出された事例研究のための資料を集約し、事例の内容や中学校区等によりグルーピングしておく。  
 (2)講師の先生と講話の内容についての打ち合わせをし、資料を印刷しておく。  
 (3)講師の先生に事例研究でアドバイスをしていただくため、事前に資料を送付しておく。

＜研修会の実際＞	日時 令和4年8月4日（木） 午後1時30分から午後4時まで			
	会場 コミュニティーセンター城里 3階大会議室			
	講師 茨城県立水戸飯富特別支援学校 特別支援教育コーディネーター	教諭 藁谷 朋子 先生		
	同	教諭 田中 文佳 先生		
【講話】	テーマ 「子どもの育ちを安心して『見守り、つなぐ』ために」	藁谷 朋子 先生		
内容	・ 困り感を体験しましょう ・ 困っているのは・・・ ・ 学級でできる支援 ・ 支援の方法（相談事例） ・ 保護者への支援と対応			
【グループ協議】	事例研究 ・ グループごとに資料を基に協議 ・ 講師より指導助言			
【まとめ】	各幼児教育施設、小・中学校、行政、適応指導教室代表より、協議のまとめや研修会の感想等を発表			



講話 困り感の体験の様子



グループ協議の様子

- ・ 支援を要する子の困り感を実際に体験することで、何がどう困っているのかを理解することができた。言葉で理解するよりも分かりやすかった。
- ・ つながりのある保幼小中の先生方と困り感や指導の仕方について協議ができ、大変参考になり発見があった。
- ・ このような機会は本当に大切だと感じた。城里町の子どもたちのために連携していければと思った。

研修会后アンケートより（一部抜粋）

様々な立場・校種の職員で城里町の子どもたちの切れ目のないよりよい支援について考える機会となった。今回の研修で顔の見える関係性を築けたことが何よりの成果であった。  
 ＜保幼小中連携・接続の推進のために・・・研修会後の実践の一部を紹介＞

- ◎相互参観：9月から12月に相互参観日を各幼児教育施設や小・中学校で1～2日間設定。希望するところを参観できるように、教育委員会で企画・調整。
- ◎小学校入学前サポートシートの実施：就学時健康診断で教育委員会より説明し、全ての保護者に依頼。幼児教育施設で回収し、小学校へ引き継ぎ、情報共有。

## 幼児教育と小学校教育の滑らかな接続のために

～夏季休業中における研修会の実践～

本市では、子どもたちの育ちを大切に、幼児教育施設と小学校の滑らかな接続を重視している。そのため、毎年夏季休業中に幼児教育施設保育者と小学校教員を対象に、幼保小の接続のための研修を実施している。

**参加者** 公立幼：3名、私立幼：1名、公立こ：1名、私立こ：5名、公立保：8名、  
私立保：4名、小学校：23名、中学校：1名

**準備** 講師依頼、講話の内容の確認等  
参加者のとりまとめ  
ICT機器の準備、確認等

### ■ 大学教授による講話 「幼保小の架け橋プログラムとは～幼保小連携接続の効果から～」

本研修会の講師として、大学教授を招き、これまでの幼保小連携接続の効果を振り返るとともに、これからの「架け橋プログラム」への理解を深め、指導力の向上を図ることを目的とし、講話を依頼した。

<講話の3つの柱>

- 1 これまでの幼保小連携接続の効果と課題について
- 2 架け橋プログラムについて
- 3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとしたカリキュラムについて

### ■ 研修会における主な意見

講話後に比較的近接する幼児教育施設と小学校の参加者でグループをつくり、グループ協議・情報交換の時間を設定した。講師から提供された幼児が遊ぶ動画を視聴し、その様子から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見取り、グループで協議を行った。さらに、互いの情報交換を行い、交流を深めた。

#### ○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・小学校の先生方と共に、園児が活動し、遊びの中に学びがあるという姿の映像を見ながら学ぶことができてよかった。
- ・普段、話をする機会のない保育園・小学校の先生方と話をするのができ、講話を含めて大変貴重な時間となった。
- ・幼保小の接続に向けて、スムーズに関わり合える関係となるように、コロナ禍でもさらに連携を一步進めたいと思った。

#### ○ 小学校教員の意見から

- ・幼児教育について、遊びの中に学びがあることや、しかけや言葉かけの大切さなど、大変参考になった。
- ・幼保小の連携のための土台となる考え方や実践等について知ることができ、今後小学校で考えていかなければならない課題を知ることができた。
- ・保育園や幼稚園の先生方と話し合いができて有意義だった。近接する園や学校をグループにしていだけてよかった。

幼児教育施設保育者と小学校教員が共に幼保小連携接続の研修会に参加することで、幼保小接続の課題を共通で認識し、「架け橋プログラム」への理解を深めることができた。

それぞれの違いを理解し、滑らかな接続をするために、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの見直し等を重視していきたい。

## 県幼児教育アドバイザーによる 潮来市幼児教育と小学校教育の接続のための研修会

潮来市は、小学校5校、こども園9園（うち公立認定こども園が1園）である。公立認定こども園は、3つの公立幼児施設を統合再編され、今年3年目となる。子どもの発達段階に応じた育ちと学びを育むためには、保幼小の円滑な接続が大切である。そこで、茨城県幼児教育アドバイザーによる保幼小接続研修会を開催することになった。

**参加者** 公立こ：2名、私立保：5名、小学校：6名  
**準備** 各園アプローチカリキュラム、各校スタートカリキュラム  
 令和4年度年間行事予定

### ■ 県幼児教育アドバイザー（福田 洋子先生）によるオンライン研修会 「講話 幼児教育と小学校教育の相互理解に向けて」

幼児教育と小学校教育との連携・接続のためには、もとより、2つの教育は仕組みに違いがあるので、その違いは大事にしつつ、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育つ様子を一人一人の子どもに即して共有し、スタートカリキュラムやその先の教育へと発展させながら、教科等の教育へと進めることが大切である。

国からも保幼小の接続については、実質的な話し合いや実践を重視することが述べられている。潮来市のこのような研修を通して、幼児教育施設と小学校教育の先生方の話し合いがこれからも大切になってくる。



### ■ 小学校区によるグループ協議「潮来市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」

- **幼児教育施設保育者の意見から**
  - ・ 友達同士でトラブルになることもあるが、学びのチャンスと捉え、声かけを行っている。
  - ・ 活動がただの遊びとにならないように「ねらい」に沿って活動を行うことが大切である。
  - ・ 子どもの「見取り」について、職員で共通理解が必要である。
- **小学校教員の意見から**
  - ・ 幼児期での経験や学びを小学校で生かすことが大切である。
  - ・ 幼児教育施設の先生方の声かけの仕方が勉強になった。
  - ・ 特別な配慮を要する子どもの情報交換が今後も大切である。

#### まとめ

潮来市での保幼小の接続については、先生方の理解は進んではいるものの未だ課題がある。このような研修や各学校区での相互授業参観等を通して保幼小の接続がよりスムーズになるように市全体で進めていきたい。



## 架け橋プログラムに向けた保幼小の交流

小学校及び幼児教育施設において、幼児期の育ちと学びを小学校教育へと円滑に接続する取組の充実に向けて、各園・小学校における架け橋プログラムの具体化の進め方について確認し、小学校、公立・私立の幼児教育施設が混在したグループでの協議を行った。

**参加者** 公立幼：6名、公立保：1名、公立こ：2名、私立保：12名、市立こ：2名、小学校：14名

**準備**

- ・3法令や学習指導要領を抜粋した資料
- ・幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）
- ・YouTubeを視聴する環境整備
- ・参加者には、各校での取り組みを話し合えるような準備を依頼

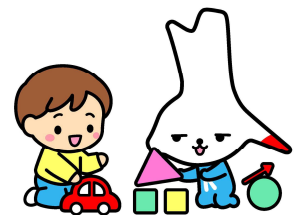
### ■講話 「 架け橋プログラムについて 」

- ・3法令や学習指導要領における、接続に関する記述の確認
  - ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について
  - ・YouTube「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）その3」視聴
- ※幼児期と児童期において、どのような活動が行われているのかを知り、尊重すべき違いを知ったうえで、接続に向けて何ができるか、何をするかを考えていくことを確認した。

### ■協議 「 各施設での取組について 」

小学校、公立・私立の幼児教育施設が混在したグループにおいて、各施設における取組について話し合い、今後の取組について協議する。

- **幼児教育施設保育者の意見から**
  - ・自己表現をする場や発表の場を工夫したり、協働→まとめ→発表という流れを作ったりすることで小学校での学習につなげていきたい。
- **小学校教員の意見から**
  - ・幼児教育施設での指導方法を小学校での指導に活かしていきたい。
  - ・オンラインを利用した交流を企画していきたい。



### ■協議 「 授業参観・保育参観のポイントについて 」

2学期以降に行う相互参観における視点について協議する。

- **幼児教育施設保育者の意見から**
  - ・良くも悪くも子供達の変化を見つけて、小学校の先生に伝えていきたい。
  - ・幼児教育施設での遊びがどのように小学校での学びにつながっていくのかを見たい。
- **小学校教員の意見から**
  - ・支援が必要な幼児に注目するだけでなく、ひと・ものなどの環境にも注目したい。
  - ・子どもの引きつけ方など、指導上の工夫を意識して見たい。

公立・私立の幼児教育施設や小学校が集まり、特別支援に関する話題ではなく、お互いの施設における取組やカリキュラム等について話し合うことができた。今後、各小学校区での協議会においても、カリキュラム等について話し合えるようにしていきたい。

## 幼児教育施設職員等合同研修会

行方市の幼児教育研修会は私立保育園・私立認定こども園職員も参加できるよう、夏季休業中の土曜日に開催している。本市の幼児教育の課題としている「保幼小の円滑な接続」「評価からの保育改善」について、幼児期の特性を踏まえた教育の推進を図るため、講師を招いての研修会を開催した。

**参加者** 公立幼12名、私立保6名、私立こ12名、小学校19名、中学校7名、教育支援センター1名、健康増進課4名、こども福祉課2名、市教委8名

**準備** こども福祉課と共催で実施し、私立保育園・私立認定こども園への連絡はお願いしている。オンライン研修であったが、当日も、こども福祉課には受付をお願いした。校長会研修会で、この研修会の周知を早くから行い、土曜日開催ではあるが小中学校の教員にも参加していただけるように研修会の参加を呼び掛けた。ICT環境が整わない公立幼稚園は、北浦庁舎で一緒に研修会を受講した。

**演題** 「学びと育ちをつなぐ保幼小接続の在り方～子ども理解に基づく評価の在り方」

**講師** 茨城女子短期大学 副学長 助川 公継 先生（茨城県幼児教育アドバイザー）

### ◆講演会の内容

#### ○幼児期は、「土台づくり」の時期

- ・「遊びこむ」体験から自己調整をする力が育つ
- ・幼児から小学校にかけては、「できること」よりも「やりたいこと」を
- ・幼児期は、伸び伸びとした環境で自己肯定感を育むことを目指す
- ・小学校以降の土台として必要な力を共有する



### ◆講演会における主な意見（アンケート結果より）

#### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・円滑な接続には、目的を共有しなければならない
- ・子どもがやりたいという気持ちを大切に育てることが大切である
- ・多くの小中学校の先生に参加していただけたのが、とても良かった

#### ○小中学校教員の意見から

- ・幼児教育について学ぶ機会を得たので、今後の指導に生かしたい
- ・保育参観に行くときの視点が以前よりはっきりとわかった
- ・「やった！できた！」を積み重ね、生徒が自信をもてるようにしたい



架け橋期のプログラムが始まり、特に小学校教員が積極的に研修に臨んでいる。今後の円滑な接続に向けて年間計画の修正に取り組んでいる。今後、幼稚園と保育園、こども園との連携を密にし、小学校との接続を円滑にしていきたい。行方市として、さらに私立保育園、こども園との円滑な接続を目指していきたい。

## 石岡市保幼小接続担当者等合同研修会（R4.8.3 開催） ～幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために～

石岡市には 22 幼児教育施設及び 19 小学校がある。石岡市における保幼小の円滑な接続を推進するため、保育者と教員による合同研修会を計画・実施した。講師選定は「県幼児教育アドバイザー派遣事業」を活用した。

**参加者** 公立幼：無、公立保：2名、私立幼・こ・保：14名、小学校：17名  
市教育相談室：1名、市職員3名

**準備** 県幼児教育アドバイザー派遣事業への申請、決定通知後、講師との事前打ち合わせ  
保幼小接続担当課（こども福祉課・教育総務課指導室）との連絡調整（生涯学習課）  
市内幼児教育施設及び小学校への周知（生涯学習課）、市教育相談室・石岡特別支援学校への周知（教育総務課指導室）

### ■ 講話「幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために」

【講師：公益社団法人 全国幼児教育研究協会茨城支部 参与 福田 洋子 先生】

当初、対面にて講話及びグループ協議後のご指導をいただく予定であったが、講話のみオンライン（Zoom）となった。

円滑に接続するには、保育者と教員の相互理解を深めることが必要であり、そのために授業参観や保育参観が有効である。遊びや環境をとおして行われる幼児教育の特性を踏まえ、保育参観をする際の「見取る視点」について、具体例（遊びの場面）を交えて分かりやすく教えていただいた。



### ■ グループ協議「幼児教育施設幼児・小学1年生の現状と今後の交流方法について」

同地区や就学先を考慮した保育者と教員の混合グループにより、協議を行った。（4人×9班）自由闊達に意見が交流できるよう、記録や発表はせず、各自のアンケートに最後に、学んだ成果を記載するようにした。

- 幼児教育施設保育者の意見から
  - ・ 入学後の卒園児の頑張っている様子が聞けてよかった。
  - ・ 小学校のトイレや給食に戸惑う課題が分かり、事前の学校見学や保護者の協力により、身につけさせたい。
  - ・ 小学校でとても工夫されていることが改めて分かった。
- 小学校教員の意見から
  - ・ 各園の幼児教育・保育カリキュラムから就学前の教育がわかり、今後の児童支援に大変参考になった。
  - ・ 幼児教育で育まれた力を生かせる指導を心掛けたい。
  - ・ 保幼の先生と悩みや情報共有ができた。これを機に連絡を取り合うなど連携を図っていきたい。



講演は急遽オンラインとなったが、保幼小の円滑な接続と相互理解に向けて学ぶことができた。参加者の大半が「小学校（幼児教育施設）の先生と話し合えてとてもよかった。」「今後も機会を設けてほしい」とアンケートに記述し、どのグループも積極的な意見交流の様子が見られた。コロナ禍でもできる交流についても協議し、今後の取組に繋げていきたい。



## 幼児教育と学校教育を円滑に接続させるための相互理解について

～龍ヶ崎市～

幼児教育と学校教育を円滑に接続するために、幼児教育、学校教育の相互理解を目的とした研修を行った。小学校の教職員対象の研修、幼児教育施設の公開保育参観、そして幼児教育施設が主体となって、学区の小学校職員と幼児教育に関する研修及び情報交換を行った。ここでは、小学校の教職員対象の研修と幼児教育施設が主体となって行われた研修について紹介する。

**参加者** 小学校：10名

**準備** ・就学前教育・家庭教育推進室と連携を図り視聴覚教材を活用する。  
・各学校のスタートカリキュラムを用意し、中学校区ごとに見直しを検討する。

### ■ 小学校教職員を対象とした研修 「遊びを通しての学ぶ幼児教育への理解」

#### ○ 研修内容（抜粋）

- ・幼児教育の理解について(講義)
- ・視聴覚教材から遊びを通して学ぶ姿について考える。
- ・視聴覚教材から幼児教育と学校教育を円滑に接続していく上で大切なことを考える。(映像の視聴・協議)

#### ○ 参加者のふりかえりから(抜粋)

- ・小学校入学期は、児童がスムーズに活動できるように、遊びの要素を取り入れた活動を企画したい。
- ・1年生入学の時点で、幼児教育施設で学んできたことが沢山あるので、それらを活かせるようにしたい。



**参加者** 認定こども園職員、学区の小学校職員、教育委員会指導主事、療育施設職員、保健センター職員

**準備** 広く参加者を募るため、教職員対象の研修時に開催の案内をする。

### ■ 学区の小学校教員と幼児教育施設の合同研修

#### ○ 合同研修での意見（抜粋）

- ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」の育みたい資質・能力が学校教育とつながっている。
- ・自分のことは自分でできるようにさせている。入学時でもできることはたくさんある。自信をもって小学校生活を送れるように、できることを小学校と幼児教育施設で共有していくことが大切だと感じた。
- ・入学前の情報共有も大切だが、入学後の情報共有も大切だと感じている。小学校に入学後に気になる子がいたら、いつでも問い合わせて欲しい。



まとめ

今回は特に、「幼児教育施設での学び」について深く研修することができた。小学校で行われている学びが幼児教育での学びとどのようにつながっているか見通した上で、スタートカリキュラムを作成または見直すことが、今後の課題である。

また、幼児教育と学校教育の学びについてよりよく理解するために、小学校教員による保育参観や、保育者の授業参観等が積極的に行われるように働きかけをしていく必要がある。

## 幼児教育施設と小学校の担当者との合同研修会

○市内幼児教育施設と小学校の交流・連携を目的とし、情報共有・協働の場として「取手市保幼小連絡協議会」を設定、実施した。(年2回：6月、12月)

### 【主な内容】

- ・「茨城県就学前教育・家庭教育推進アクションプラン」を踏まえた幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修
- ・「令和4年度保幼小接続年間計画シート」の作成・検討
- ・保幼小の交流・連携に関する情報交換

**参加者** 公立幼：1名、私立幼：11名、公立こ：5名、私立保：5名、小学校：14名  
**準備** ・「家庭教育応援ナビ」(研修動画視聴を含む)の閲覧・活用についての周知  
 ・昨年度の保幼小連携の取組に関する調査

### ■「令和4年度保幼小接続年間計画シート」の作成

- 中学校区を基本としたグループを編成し、幼児教育施設園内リーダーと小学校保幼小接続コーディネーターが、保幼小交流の取組について情報交換し、今年度の年間計画について検討した。

#### 【各幼児施設と小学校が計画した主な取組】

- ・計画訪問や行事を兼ねた保育参観、授業参観
- ・入学予定園児の小学校見学・体験会
- ・小1国語科「小学校の様子を知らせよう」での学習交流
- ・小2生活科「作って遊ぼう」での学習交流
- ・小1生活科で作ったおもちゃを学区の園児に届ける
- ・小2生活科「町探検」での幼児施設訪問・園児との交流
- ・小学校での生活や学校行事の様子について、児童とともに動画を作成し、学区の幼児教育施設に届ける
- ・アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムに関する合同研修(小学校区)
- ・オンラインによる定期的な保育者と小学校教員の交流研修(小学校区)
- **幼児教育施設保育者の意見から**
  - ・直接交流ができなくても、写真、動画等を介して、学習や生活の様子について交流できることが確認できた。
  - ・他の自治体等の交流の具体例を知り、参考としたい。
- **小学校教員の意見から**
  - ・相互参観等を通して、幼児期の子供の姿を知ることが重要だと感じた。
  - ・カリキュラムの中に、地域の特徴を生かした取組をもっと入れられたら良いと思った。

- ・保育者と小学校教員が、参集し、様々な情報交換を行う中で、幼児期の子供の姿や小学校での学習の様子などを知ること、参加した先生方が新たな視点を持ち、日々の指導や支援について振り返ることができた。
- ・保幼小の連携により実施された取組について、どのように共有し、発展させていくかが今後の課題である。

## 保育者と小学校教員を対象とした保幼小接続の研修

牛久市では令和2年度より「茨城大学教職大学院と連携した幼児教育センター事業」を実施し、保育者と小学校教員への研修・保幼小接続・配慮を要する幼児への支援・保護者支援の4つを主な柱として取り組んでいる。本事業は市内全ての幼児教育施設と小・義務教育学校を対象としており、茨城大学教職大学院の協力を得ながら、保幼小のよりよい連携と円滑な接続を目指している。

### 参加者

#### ①令和4年度牛久市保幼小合同連絡会

39名〔公保：4名、私保：11名、公幼：3名、私幼：3名、私認こ：3名、小・義：8名、行政：7名〕

#### ②令和4年度牛久市幼児教育センター事業研修会（全4回のうち3回目まで実施済）

（第1回）35名〔公保：5名、私保：11名、公幼：6名、私幼：5名、私認こ：4名、行政：4名〕

\*第1回と第4回は幼児教育施設の保育者を対象とした研修のため、小・義務教員の参加はなし。

（第2回）26名〔私保：8名、公幼：2名、私認こ：2名、小・義：8名、行政：6名〕

（第3回）15名〔私保：3名、公幼：3名、私認こ：1名、小・義：4名、行政：4名〕

### 準備

- 茨城大学教職大学院の協力による専門的な研修と、受講者が学びたいと思う必然性のあるテーマを設定することで、施設類型を問わず保育者や教員の資質・能力の向上を図れるようにする。
- 幼児教育施設の保育者と小・義務教育学校の教員がつながる機会のある研修の流れにする。

### ■①令和4年度牛久市保幼小合同連絡会（6月）

講演テーマ：「特別な支援が必要な子どもへの配慮・支援と保幼小接続」（講師：茨城大学教職大学院教授）

幼児教育と小学校教育には発達段階に即した「学び方」や「教え方」の違いがある。幼児教育と小学校教育を融合した保育・教育にすることが必要である。また、困難の背景を踏まえた特別な支援を幼・小共通で実践していくことも重要であることを学んだ。

### ■②令和4年度牛久市幼児教育センター事業研修会（7月・9月・12月）

（第1回）個別の指導計画作成研修①（第2回）保幼小接続 保育実践研修①

（第3回）保幼小接続 保育実践研修②（第4回）個別の指導計画作成研修②

「個別の指導計画作成研修」では、作成方法や困難の背景の捉え方等について確認し、文例集を参考に作成演習をした。作成経験のない保育者や、実践している中で迷いや悩みを抱えていた保育者も、大学院教員からの指導を受けることで、作成することの意義が理解でき、意識が高まった。

「保幼小接続 保育実践研修」では、茨城大学教職大学院生による公立幼稚園での保育実践の様子を、保育者と小学校教員と一緒に参観した。幼児教育の遊びと小学校教育の教科の内容を重ねた実践が、幼児期から学童期の発達段階にある幼児や児童にとって有効だと理解することができた。

### ■協議における主な意見（グループ協議及び全体での共有）

#### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・個別の指導計画の作成方法や気になる子への支援が分かり、園でも作成しようと思った。
- ・遊びの中で、保育者が進め方を工夫したり興味のもてるような教材を準備したりすることで、さらに子どもたちも意欲的に参加できるということがよく分かった。

#### ○小学校教員の意見から

- ・子どもたちが、なだらかに発達していくことを意識して、保幼小の学びを融合させる工夫を授業で実践していきたい。

### ■今後の取り組みについて

保幼小接続の段差を小さくするためには、特に小学校教員が幼児教育についてさらに理解を深める必要があると考える。そこで、小学校区ごとの地区保幼小のつながりを活用した相互参観や研修への参加等、年間を通して学ぶ機会を得るよう促すことで、よりよい接続を目指していきたい。



大学院教授による保育実践の解説と全体共有



## つくばみらい市幼児教育と小学校教育の接続のための研修会

令和3年12月1日（水）に、保幼小接続コーディネーター及び園内リーダー等を対象に、つくばみらい市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進することを目的とした「幼児教育と小学校教育の接続のための研修会」を実施した。

**参加者** 公立幼：3名、公立保：4名、私立保：6名、私立こ：3名、小学校：10名  
**準備** 持参資料として、各幼児教育施設からアプローチカリキュラム、各小学校からスタートカリキュラム

### ■協議「アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し～幼→小、小→幼の視点から～」

#### 1 幼児教育と小学校教育の接続について（事務局説明）

- ・幼児教育と小学校教育の特徴
- ・カリキュラム作成の留意点

#### 2 グループ協議

- ・アプローチカリキュラム  
→小学校教育の視点から見直す
- ・スタートカリキュラム  
→幼児教育の視点から見直す



【自園・自校のカリキュラムについて説明し、見直しをする】



【代表グループによる発表】

### ■説明「特別支援教育をめぐる連携・接続について」

- ・個別の教育支援計画の作成について  
→つくばみらい市版「支援ファイル」の周知と活用依頼
- ・幼児教育施設から小学校への引継ぎについて  
→つくばみらい市版「支援ファイル」を活用し、子どもの実態だけではなく、保護者が小学校生活に対して不安に感じていることも引継ぎの内容に加えることを説明



### ■参加者からの主な感想

#### ○ 幼児教育施設保育者から

- ・小学校の現状を踏まえたアプローチカリキュラムの見直しや、職員間の理解と共有が必要だと思った。
- ・他幼児教育施設のアプローチカリキュラムを参考に自園でも作成していきたい。
- ・接続時だけではなく、継続して子どもの成長を見守っていける仕組みが重要であると感じた。

#### ○ 小学校教員から

- ・アプローチカリキュラムを見ると、幼児教育施設では学校生活で必要なことを身に付ける活動を行っていることが分かった。
- ・幼児教育施設との連携は大切であることを改めて感じた。
- ・支援ファイルを使った配慮を要する子についての共通理解を図ることが重要だと感じた。

本研修会実施により、小学校へのつながりを意識したアプローチカリキュラムや幼児教育での育ちを踏まえたスタートカリキュラムの作成や見直しへの意識が高まり、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携につなげることができた。今後も、保育者と教員が共に協議したり情報交換したりする機会を設定し、市の幼児教育と小学校教育の接続・連携を図っていきたい。

## 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組

### ■ 保幼小接続についての状況確認アンケート

対象：小学校（保幼小接続コーディネーター）

準備：1人1台端末の Teams に「保幼小接続コーディネーター」のチームを作成。Teams に入り Forms で作成したアンケートに答えてもらう。項目は、スタート・カリキュラムについて、教育施設との連携について、令和3年度の反省や課題についてなど。

時期：1月

結果：令和3年度の取り組み状況を把握するのに使用した。入力後、集計結果を確認することができるので、他校の接続状況も見ることができる。

積極的に交流をしている小学校と交流のない小学校の差があることが分かった。また、交流内容についても、直接交流（行事の参加や授業の参観）や間接交流（手紙やビデオレター）など様々であった。

### ■ 架け橋タイム（幼稚園と小学校の情報交換）

対象：公立幼稚園、就学先の小学校1年生担任

準備：小学校に対話の時間をもつことの確認、幼稚園から小学校への依頼文書の作成

時期：7月

結果：今回の対象小学校は3校であったが、一度に集まることができなかったので、2回に分けて行った。幼稚園は、気になる卒園児の様子を聞き、幼稚園でやっていたことをアドバイスすることができた。小学校では、困っている児童について園からの情報を得ることができたり、幼稚園で行っていた取組を知ることができたりし、お互いに有意義な時間になった。



### ■ 常総市保幼小合同研修会

対象：市内幼児教育施設、小学校

準備：講師依頼（県アドバイザー派遣の申請）、場所の確保

時期：8月から10月に延期(コロナウイルス感染拡大防止のため)

内容：講話、近くの小学校ごとにグループ分けし、グループ協議（アプローチ・スタートカリキュラムについて、今後の交流の設定、情報交換等）



### 成果と今後の課題

- ・ Form のアンケート機能を使うことで、参集する時間を取らずに、取組を知ることができた。
- ・ 架け橋タイムを他の地区にも広めていきたい。オンラインも活用したいが、幼児教育施設には使用できる端末がないところもあり、難しい。

## 境町幼児教育と小学校教育の接続委員会

～組織的な研修に関する実践～

## 概要

- ・ 学びの基礎力を培う大切な時期である幼児期から児童期にかけて、互いの教育を見通し、連続性・一貫性のある教育を行う必要がある。そこで、保幼小の連携を進め、接続カリキュラムによる円滑な接続を行うために組織された委員会における年度始めの推進委員会を開催。本年度の計画と研究協議を実施。

**参加者** 私立保育園：4園4名、私立認定こども園：5園6名  
 小学校：5校5名  
 境町役場：子ども未来課1名  
 学校教育課：指導主事2名、学校教育指導員1名、教育相談員1名  
 生涯学習課：社会教育主事1名

## ■ 本年度の事業計画の確認

- 推進委員会
    - ・ 1回目～5月19日(木)：計画と実践の在り方(方向性) 接続期に育って欲しい子供の姿を見据えて
    - ・ 2回目～11月29日(火) 実践途中経過の協議 ※合同研修会を兼ねる
  - アプローチ・スタートカリキュラムの実践と改善の実施
    - ・ 幼児教育施設～アプローチ・カリキュラム
    - ・ 小学校～スタート・カリキュラム
  - 授業と保育の相互参観及び協議の実施
    - ・ 教育課程及び保育過程の見直し、指導内容等の充実を図る
    - ・ 交流、情報交換～工夫しさらなる連携 ※コロナ禍でもできることを
- 【授業と保育の相互参観】
- ・ テーマ：保幼と小学校で育てたい子どもの姿と情報共有の在り方
  - ・ 小学校授業参観、幼児教育施設保育参観



## ■ ミニ研究協議～小グループで情報交換～

- 協議①～カリキュラムを振り返ろう
  - ・ 実践した成果と課題
  - ・ 年度末に取り組みたいこと
  - ・ 幼児教育施設・小学校に伝えたいこと
  - ※ 「よかったこと・続けていきたいこと」 「問題があり改善が必要な事は何か」 「新しく取り組むこと」を視点に協議・情報交換
- 協議②～8月までに実践可能な取組を検討しよう
  - ・ 入学後新入生情報交換
  - ・ 保育参観、授業参観
  - ・ 保育と授業交換体験
  - ・ 接続カリキュラムの実践
  - ・ 幼児と児童の交流 [お店屋さんごっこ、生活科発表会、おもちゃのプレゼントなど]
  - ・ 園内研修、校内研修による共通理解



国の幼保小架け橋プログラム事業、本年度の県、境町の取組について確認をし、コロナ禍でもできることを実践し、接続、連携を止めないことを共通理解をすることができた。

ミニ研究協議では、小グループのメンバーを変え、幼児教育施設と小学校を交えた情報交換を行い、園児の質の高い遊びをとおした学びについて理解を深めることができた。



## 幼児期の豊かな学びを小学校と地域でつなぐ取り組み

### 小学校（コミュニティ・スクール）の実践

本市は、中学校区ごとに3つの『コミュニティ・スクール』（高萩東CS、秋山CS、松岡CS）を形成している。幼稚園と小学校のみの連携、協力だけではなく、各小中学校の地域連携コーディネーターが中心となり、コミュニティ・スクール全体として地域の人々とともに幼児期から小学校への移行がスムーズにできるよう様々な活動に取り組んでいる。

**参加者** 園児、児童、教職員、はぎっズサポーター、地域連携コーディネーター、コミュニティ・スクール委員 など  
**準備** それぞれの活動における準備物

#### ■ 地域で支える取り組み

- 入学時期の朝の準備のお手伝い
- 学校体験（ザリガニ釣り、秋まつり等）
- 給食体験
- 合同あいさつ運動
- 小学校教員の幼稚園訪問
- 防災訓練
- 給食体験
- 人権教室の開催
- 幼児教育施設の小学校訪問
- 訪問型家庭教育支援員の活動周知、相談活動
- 小学校の1年生の全家庭へのアンケートの実施



#### ○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・園児たちは、小学校とはどんなところかを肌で感じることで、不安感が軽減やし、見通しをもつことにつながると感じた。
- ・小学校での学びを意識しすぎず、幼児期の「遊び」を通した学びを存分に経験させることで、小学校につなげたい。

#### ○ 小学校教員の意見から

- ・幼児期にどのような学びをしているのかを知ること、入学してきた際には、「遊び」を通した「学び」につなげるよう意識することができた。
- ・小学校と幼児教育施設の職員だけではなく、地域の方々の力を借りることで、幅広い活動ができ、児童だけではなく、たくさんの大人とかわりをもつことが有意義なことだと思う。
- ・幼児とのかかわりは、児童にとっても成長につながると思う。

- ・コミュニティ・スクールの機能を生かした連携は今後も継続していきたい。
- ・入学前の幼児一人一人における情報交換は今後も継続するが、入学後に小学校と幼児教育施設の先生の意見交換の場を設けることで、よりよい支援ができると思う。

## 「鹿嶋市アプローチ・スタートカリキュラム」の実践事例 ～保幼小の連携接続を意識した創意工夫ある取組事例～

「鹿嶋市アプローチ・スタートカリキュラム」にもとづいて、各校が、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を推進する。全職員でスタートカリキュラムの目標を共有し、1年生の児童を見守り育てながら、1年生の児童が安心して小学校生活を送ることができるようにしている。

### ■スタートカリキュラムの実践（接続を意識した取組事例）：鹿嶋市立三笠小学校の例



#### 【登校班バディ】

安心して学校生活のスタートを迎えることが、その日1日の過ごし方に大きく影響する。そのため、登校班の新入学児に対して上級生が一人ずつバディとして組み、登校中の見守り、登校後の朝の支度のサポートをしながら励ましの声掛けをする。上級生とのつながりがもて、気持ちのよいスタートをきることができている。



#### 【なかよしタイム】

朝の挨拶、健康観察後に、他学年より長めの準備時間を設定している。折り紙やお絵かきなど思い思いに活動したり、担任による読み聞かせ、動画を活用した手遊びなどをみんなで楽しんだりする。始業前に、心身共に十分に満たされる時間を設けることで、授業への意欲や関心の高まりが図られ、学習にスムーズに取り組めるようになっている。

### ■教員の保育参観による幼児理解及び接続への意識向上：鹿嶋市立平井小学校の例



#### 【保育参観】

6月、8月に「保育環境」「幼児との関わり」「個別指導」の共通の視点で参観をした。視覚的な環境の工夫、参考となる関わり方や取組を日々の学校生活で取り入れることにより、児童にとってより安心できる環境を整えることができた。また、幼児の遊びのねらいを知ることによって、幼稚園、保育園で学んだことを、学習活動の中で生かすことができている。

#### <まとめ>

幼児教育で育まれた資質能力を、小学校教育の中で発揮させるためには、安心して過ごすことのできる環境の整備が必要である。本市の各小学校と幼児教育施設は教職員と保育者が積極的に相互参観をしたり、情報交換等の話し合いを行ったりしている。また、コロナ禍の中ではあるが、小学生と園児の交流も、生活科の学習や学校行事等を通して行われており、接続を意識した創意工夫ある実践をしている。

相互の教育について理解し合うことが連携・接続の基本である。今後は、「架け橋期」を意識し、学びの連続性を意識したカリキュラムを市全体で再構築し推進していく。

## 園小交流事業・5歳児を対象とした外国語に触れる活動

義務教育学校前期課程専科教員・ALT をこども園に派遣した実践

河内町が力を入れている外国語教育を、こども園に通園している子どもたちが体験できる場を設定し、「子どもたちが友達や先生と一緒に活動を楽しむ機会」「遊びの中で子どもたちが外国語に触れる機会」「子どもたちが義務教育学校に入学した際、一つでも『知っていること』を増やす機会」とした。具体的には、2つのこども園にそれぞれ前期課程専科教員とALTを派遣することを企画し、5歳児を対象に45分の実践を行った。

**参加者** 公立こ園児：20名、公立こ職員：4名、義務教育学校職員：3名、  
教育委員会職員4名

**準備** 事前に用意・連絡しておいたもの

第1回園小連絡会（こども園・学校・教委）における外国語活動への協力の呼びかけ  
義務教育学校と幼児教育施設との日程調整、開催文書

### ■外国語に触れる活動「外国語を楽しもう」

※5歳児を対象に、次のような流れで活動を実施した。

- ・天気を表す英語を言葉とジェスチャーで伝えよう
- ・英語の歌を歌おう
- ・英語での果物の言い方をフルーツバスケットで使おう
- ・聞いてみたいことを質問してみよう



※外国語の言葉だけでなく、イラストを使って補助していたので、園児たちの「自分もできる」「自分もやってみたい」という主体性を引き出すことができた。

※質問の場面では、園児が好きな野菜とALTが好きな野菜が一致し、園児たちは「外国から来た方も同じ人間だ」という思いをもつことができた。

### ■協議（紙面・口頭）における主な意見

※市町村幼児教育アドバイザーが間に入り、両施設の意見等を紙面や口頭で伝える形で意見交換を行った。両施設からは、次のような意見が出てきた。

#### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・活動が終わった後、園児は地球儀や世界地図を見たり、習った歌を口ずさんだりするなど、外国語に興味をもった様子を感じられた。2回目も実施してほしい。
- ・園児たちの新たな姿を見ることができ、とても有意義な時間だった。
- ・園児が興味をもてるようにするための活動の進め方がとても参考になった。

#### ○義務教育学校前期課程専科教員・ALTの意見から

- ・こども園ごとに園児の雰囲気や異なり、園児の様子を知ることができてよかった。
- ・義務教育学校に兄や姉がいる園児も多く、声もかけられ、身近に感じてもらえたようだ。
- ・園児たちが活発に活動している様子を見て、こども園の指導がしっかりしていることを感じた。

義務教育学校前期課程教員とALTを初めてこども園に派遣できたことは、5歳児にとっても幼児教育施設の職員にとっても、非常に効果的な取組であった。前期課程教員の負担もあるが、2回目の活動も実施できるように依頼していく予定である。



## 円滑な保幼小の接続を目指した幼児教育施設園内リーダーや小学校保幼小コーディネーターの取組

保育園・小学校の実践

幼児と児童の交流や進級する幼児の共通理解を図ることで、コロナ禍においても幼児教育から小学校教育へ円滑な接続につながるような取組を実施する。特に年長児と1年生児童が交流することで、入学への意欲を高めたり、不安を和らげたりすることをねらいとする。

**参加者** 私立保：年長児、小学校：1年生児童

**準備** <小学校> 学習体験を目的とした生活科の学習で使用される植物やおもちゃ等  
<保育園> 園の畑で育てたさつまいも、交流の場

### ■接続カリキュラムの実践

#### 保育園の取組



小学校教員の保育園訪問



保育園の畑のさつまいもを園児と小学生が収穫した食事会



#### 小学校の取組



園児・小学生の合同避難訓練



園児の小学校授業参観



小学生と園児の交流

### ■実践をもとにした検討・課題

#### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・1年生との交流シーンの写真を幼稚園・保育園で掲示することで、継続して、進級の意欲を高められる。
- ・保育参観や授業参観など、保育者と小学校教員の積極的な交流は、安全面から難しいこともあるが、少人数に限定して行っていく意義も感じる。

#### ○小学校教員の意見から

- ・生活科など、教科横断的に交流を考えることも、必要である。
- ・幼児施設職員と交流・体験内容の共有を行うことで、教育的効果を高めたい。

よりよい保幼小接続・連携のためには幼児教育と小学校教育の相互理解が必要なことから、コロナ禍においても幼児・児童の交流活動は続けていきたい。また、職員の相互参観も感染対策を十分に行い、実施することで、事例の持ち寄りや意見交換につながり、お互いのカリキュラムの改善になるようにしていきたい。

## 交流会や保育参観、連携会議を通じた 円滑接続ステッププラン

かなくぼ保育園・結城市立絹川小学校との実践

小学校入学にあたっての不安やスムーズな接続を図るために、年長（就学予定）の保育園児を招いての交流会を実施した。また、就学前の情報交換の必要性が高いことから、小学校教諭と特別支援コーディネーターが保育園を訪れ、保育参観を実施した。その後、気になる園児や保育園での生活について、連携会議を行った。

**参加者** 【交流会】かなくぼ保育園児：16名、絹川小学校児童：22名  
【保育参観・連携会議】かなくぼ保育園：4名、絹川小学校：3名  
**準備** 1年生が作成した手作りおもちゃ、ランドセルやタブレット機器  
保育園からの情報、個別の支援計画 等

### ■ 交流会の実施

就学予定のかなくぼ保育園の年長園児を招いて交流会を行った。1年生が手作りしたおもちゃを使って一緒に遊んだり、校舎内を案内したり、ランドセルやタブレット端末を活用して1年生の生活や授業について紹介した。



### ■ 保育参観・連携会議の実施

1年生の担任と特別支援コーディネーター教諭が、かなくぼ保育園を訪れ、保育参観を行った。その後、気になる園児や保育園での生活について、園の先生や園長先生と情報交換及び引き継ぎを交えた連携会議を行った。



### ■ 実践における主な意見・感想

#### ○ 幼児教育施設保育者の意見・感想

- ・園児たちは、小学校へ入学することへの楽しみや不安を抱えているので、学校の環境や生活の様子などを知ることができて良かった。
- ・小学校の生活の様子や約束事を確認することができたので、就学までの過ごし方や生活の改善点など保護者への情報提供ができた。

#### ○ 小学校教員の意見・感想

- ・実際の生活の様子を見ることができて、園児の理解が深まった。気になった園児についても、保育園の先生と情報交換をすることができて良かった。
- ・それぞれの要望等も率直に伝え合うことにより、お互いに連携していこうとする意識が高まった。

幼児と児童の交流を通じて、円滑な接続ができるようになっている。また、就学前の情報交換の必要性への認識は高いので、引き続き保育者と教員との相互訪問や情報交換を実施していきたい。更に、就学後の情報交換の場も設定して児童理解を深めていきたい。

## 小学校保幼小接続コーディネーターの取組について

### 保育参観・授業参観



参加者：各小学校区にある幼児教育施設の先生方  
各小・義務教育学校の1年生担任、特別支援コーディネーター  
＜内容＞：年長クラスの様子を見てもらう保育参観  
情報交換



### 接続カリキュラムの実践



【時期】入学してから1週間

【内容】学校探検、トイレの使い方、ロッカーの使い方  
返事の仕方や鉛筆の持ち方、廊下の歩き方、プリントの  
渡し方、給食当番の仕事、学校のきまりについて 等

【時期】4～5月

【内容】1日ひとつ新しいチャレンジ（スモールステップ  
の目標設定）、各教科モジュール形式での学習活動、  
体験的・操作的、作業的な学習を取り入れた授業展開、  
保護者との関係づくり（小・義務教育学校生活への安心  
感につながる情報提供）

### 幼児と児童の交流について

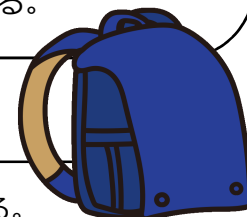
＜R5・2～3月実施予定＞



- 幼児が1年生と一緒に折り紙を折ったり、絵を描いたり、トントン相撲などをしたりする。
- 校内案内、ランドセルを背負う体験をする。
- 交流活動：図画工作「ぼく・わたしをえがこう」
  - 描いた作品は入学時の教室環境に使う  
生活科「おもちゃをつくってあそぼう」
    - 作ったおもちゃは体験学習の記念としてプレゼント  
生活科「できるようになったよ」の発表会
- 1年生の学習・生活の様子を紹介をVTRにまとめて各園にプレゼントする。

### 意見交換から

- 新年度の担任に確実に伝達するために、情報交換を密にすることが大切である。
- 「茨城県保幼小接続カリキュラム」、「保幼小接続プログラム」を活用したことが効果的であった。





## 一年生の一日

～小学校生活の一部を伝えるための実践～

### 概要

町の推進委員会で同じグループになった職員から、年長のクラスの子どもたちが、「ランドセルの中には何をいれるんだろうね」と話しているという話題が持ち上がった。それならば、小学校で一年生の生活の様子を動画や写真で撮影し、DVDにまとめて町内の幼児教育施設でみてもらったらどうかということで、取り組むことにした。

**参加者** 私立幼：おおぞら保育園23名、私立保：コビープリスクールさかい10名

小学校：境町立境小学校 1年生 69名

**準備** ・行事や日常生活、学習の様子を写真に撮っておく。

・音声を録音する児童を決めておく。

### ■「一年生の一日 紹介DVD」

#### 【動画の内容】

- 登校してからの朝の活動
- ・アルコール消毒してから教室に入る。
- ・ランドセルをおろして、中のものを出し、机にしまう。
- ・宿題などの提出物を出す。
- ・係のお仕事の様子
- 朝の会の様子
- 境小学校の校歌
- 学習の様子（英語の授業、アサガオの観察）
- 生活科校外学習の様子（さくらの森パーク）



### ■視聴後の感想

- 幼児教育施設保育者の意見から
  - ・一日の活動の様子を想像しながら見る事ができた。
  - ・小学校での生活を不安に思っている子どもたちもいるので、とても参考になった。
  - ・卒園児の様子を見る事ができたので、がんばっている様子を見る事ができてよかった。
- 小学校教員の意見から
  - ・一年生は、「誰が見るのかな」「幼稚園の先生たちもみるのかな」と会話しながら、動画を見る相手を思い浮かべながら声の録音などを行った。
  - ・分かりやすく伝えるように話し方を工夫する様子が見られたので、実際に会うことができないけれども相手を思いやる気持ちを持つ事ができたと考えられる。



感染症対策でICTの活用が進んだので、コロナ禍であっても、内容を変更したり、オンラインや動画など交流の方法を変えたりすることによって保幼小の交流が可能であると思った。今後も、オンラインや少人数での保育参観、授業参観などを計画し、子どもたちのために積極的に進めていきたい。

## 保育園の園児と花育体験教室へ参加

### 境町立長田小学校の実践

保幼小連携の一貫として、境いずみ保育園より交流のお話をいただいた。1年生が年長児と活動することも考えられたが、今回は来年度の最高学年として、5年生が参加した。

**参加者** 境町立長田小学校：5年生57名、境いずみ保育園：年長児30名

**準備** 花、土、プランター等は、全て花育体験教室側で準備

令和4年7月5日

主催 いばらきの花振興協議会

#### ■体験教室の実施

保育園の年長児を迎え、あいさつとグループ作りをしてから開始した。講師の紹介では、花の名前や特徴なども教えていただいた。

花の植え方では、一つ一つ段階をおって丁寧に指示を出していただき、子どもたちは熱心に話を聞いて取り組むことができた。5年生2人と年長児1人の3人組で行ったため、始めは緊張している様子も見られたが、作業していくうちに打ち解けているグループもあった。相談しながら進めたり、優しく教える場面があったりと、温かい雰囲気の中で行うことができた。

また、熱中症対策として、開始時刻を早くする、ミストシャワーや打ち水をする、日陰での作業にする等、様々なことを考え実施した。

出来上がった寄せ植えのプランターは、学校と保育園で育てている。



#### ■体験を終えての振り返り

##### ○担当の意見から（小学校）

- ・花を植える活動が簡単で、子どもたちが自信をもって教えてあげられた。
- ・自分たちより幼い子に対して、「しっかり見本にならないと。」という姿勢がうかがえた。
- ・子どもたちの温かい心が引き出されたように感じた。

##### ○担当の意見から（保育園）

- ・専門職の方に教えていただき一つ一つ進めたので、園児でも分かりやすかった。
- ・小学生がリードしてくれ、最初の緊張もほぐれてたくさんの笑顔が見られた。
- ・一緒に活動できて、貴重な経験だった。

##### ○子どもたちの意見から（5年生）

- ・仲良くできた。名前を聞いたらずいぶん慣れてくれて、嬉しかった。
- ・来年、自分たちを覚えてくれていたら嬉しい。
- ・花のことをたくさん知れたし、ちゃんと植えるのが初めてで楽しかった。
- ・家でもやってみようと思った。
- ・心がきれいになったみたい。
- ・「楽しかった人？」と聞かれたとき、一緒にやった子が手を挙げてくれて嬉しかった。



##### ○今後の課題等

- ・暑い日の実施だったため、熱中症対策をしたが、時期や場所について検討が必要だと感じた。
- ・出来上がった寄せ植えの世話と管理が難しいと感じた。



今回の体験教室を通して、5年生が高学年として責任をもって活動する、自分より年下の子に対して優しく接する様子が見られた。年の近い子とは普段の学校生活で過ごしているが、年の離れた子との交流は、実りあるものとなった。初めての試みだったが、保幼小連携の機会として実施することができ、よかった。交流をするときには、時期と場の設定、参加する児童の検討をしていきたい。

# スタートカリキュラムを意識した生活科「えんのせんせいにしらせよう」 猿島小学校の実践

生活科「みんななかよし」の学習活動として、入学してから今までに体験したことやできるようになったことを卒業園の担任の先生にはがきで知らせる活動を行った。児童は、お世話になった先生に報告できる達成感と、成長を喜んでもらえる満足感を得る体験ができた。

**参加者** 猿島小学校 1年児童 31名  
**準備** 入学してからまでの生活体験や学習活動を振り返る(生活科カード、写真 等)  
はがき 手紙の書き方パンフレット(郵便局発行)

## ■スタートカリキュラムの実践

### ★生活科「みんななかよし」

#### (1) ともだち 100人大さくせん

##### ① 2年生からの招待

1年生も興味津々で調理台や骨格標本を見学していた。その後、校庭で楽しく遊び、親睦を深めた。



##### ② 6年生との交流

6年生に励まされることで、練習時より記録が伸びる児童が増えた。別日には、6年生の企画でグループ遊びを実施し、さらに親睦が深まった。



##### ③ 先生となかよし大作戦

「学校には、どんな先生が、どんなお仕事をしているのかな？」という疑問から始まり、休み時間等を使って学校中の先生方に声をかけた。



#### (2) いきもの・花となかよし

アサガオの種をまき、一人一鉢でお世話を始めた。また、東武動物公園遠足では小動物に触れ、その温かさややかさを体感した。



#### (3) えんのせんせいにしらせよう

「園の先生にもできるようになったことをお知らせしたいな。」

はがきっておもしろいな。

お手紙に書こうよ。



国語で、詳しく書くことを学習したよね。



逆上がりができるようになったよ。

足し算引き算ができるよ。



お返事が来たよ。嬉しいな、これからもがんばろう。

児童は、入学してからの3ヶ月で数々の学習体験をし、それらの体験から得た知識や技能を教員や家族に話す機会が多くなった。また、郵便局からいただいた学習用のはがきを使い、郵便について触れると、「園の先生方にはがきで今の様子を知らせたいな。」と自発的な活動として単元に組み込むことができた。また、入学当初から、話すことを中心に学んできた国語科の内容を生活科にも生かすことで、合科的、関連的な指導ができ、学びを生かすことの楽しさも実感することができた。今後も、園との交流を通して「自発的な学び体験」を増やし「確かな学力」「深い学び」につなげていきたい。



## 幼児期に育まれた姿や生活のつながりを意識したスタートカリキュラム

児童が安心して小学校生活をスタートできるよう、園との情報交換を反映させたスタートカリキュラムの実践に取り組んでいる。入学前に行う引き継ぎの話合いや保育者から知り得た情報を加味してカリキュラムの内容を見直し、計画・実践している。また、知り得た情報は職員で共有し、児童理解や指導に生かしている。

参加者 森戸小学校児童25名

準備 保育者からの情報、絵本、算数教科書、算数ブロック

### ■授業や生活指導を通じた実践

#### ○読み聞かせ

朝の会や帰りの会、授業などで読み聞かせを行っている。児童が好きな本や国語の教材に関連する本などを中心に読んでいる。



#### ○数しらべ

算数「10までのかず」では、幼児期に園で畑の農作物を収穫し数えた体験をふり返りながら、野菜をブロックに置き換えて数調べを行った。



#### ○集中力を持続させるために

授業開始時や静かに聞いてほしいときは、手遊びやストレッチなどをして気持ちを切り替え、集中して取り組める支援をしている。



### ■実践をもとにした検討

児童は、読み聞かせが大好きで、毎回楽しみにしている。今後も児童の実態に合わせた本選びをしていきたい。また、算数の授業では、児童が幼児期に体験した野菜収穫の喜びを共感しながら、教科書の挿絵にブロックを置いて楽しく数を数えることができた。これからも園との連携を図り、経験してきたことを学びに繋げていきたい。児童を集中させたいときは、手遊びやストレッチなどを行った。楽しく気持ちを切り替えることができた。小学校生活スタート時の児童にとって、園での習慣を取り入れることは、安心感につながることを実感した。

### まとめ

小学校1年生は、新しい環境での生活に期待と不安が入り混ざって入学してくる。児童の不安を少しでも和らげ、安心して学べるような配慮が必要である。今後も、園との情報交換を密に取り、児童が小学校生活に希望をもち、安心して学び、チャレンジしていけるような支援をしていきたい。10月には、認定こども園はなぶさと相互授業参観を行う予定である。

## 幼児期に育まれた姿や生活のつながりを意識した スタートカリキュラム 境町立静小学校の実践

学校生活の仕方 令和4年4月8日(金)から  
スタートカリキュラムに合わせ、入学式翌日から、児童自ら主体的に、安心して、朝の用意ができるように工夫した実践

**参加者** 境町立静小学校：児童14名

**準備** ・朝の準備の仕方を書いたカード・提出物が分かるよう写真を添付した提出用のかご  
・ロッカーの入れ方が分かるように6年生児童が描いたポスター

### ■スタートカリキュラムの実践

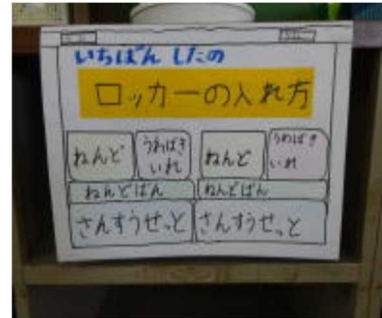
【学校生活の仕方・・・令和4年4月8日(金) 入学式翌日、朝の用意をする児童の姿】  
(幼児期に育ってほしい子どもの姿②・③と関連)



(朝の用意の仕方の順番を掲示)



(かごに提出するものの写真を貼付)



(ロッカーの入れ方を掲示)



### ■実践をもとにした検討

※小学校3校、幼児教育施設1校のグループで「接続期に育って欲しい子供の姿を見据えて、どのような接続カリキュラムを進めているか」との視点で協議を行った。

#### ○幼児教育施設保育者の意見から

- ・保育園では、カルタ遊びや絵本の貸し出し、おまつりの看板の文字を書くことなどを通して、文字に親しみ、興味をもてるようにしている。
- ・指示されている事柄に写真やイラストなどが入っているととても分かりやすい。

#### ○小学校教員の意見から

- ・「朝の用意」の順番を示したカードは、児童の活動に有効である。本校では、カードにイラストを入れる工夫をしている。
- ・かごに連絡帳の写真を添付してあるのは参考にしたい。支援が必要な児童や外国籍の児童にとってよい方法である。

朝の用意の手順が分かり、児童自ら進んで行うことができた。そのため、落ち着いた態度で朝の会から1時間目の授業へとスムーズに取り組んでいくことができた。

## 遊びの中で学ぶ力、数、文字への関心をもつ ～こどもまつり～

- ・こどもまつりの、のれん製作(グループで話し合い、絵や文字を書く)
- ・看板づくり
- ・異年齢児との交流

**参加者** ひまわり保育園:13名

- 準備**
- ・こどもまつりがあることを伝える
  - ・5種類のお店屋さんがあること、その店番役を行うことを伝える
  - ・画用紙、クレヨン、折り紙、筆などを使用

### ■ 園の行事 「 こどもまつり 」

- ・グループでお店の品物の色や形、種類など友達と話し合いをし、イメージを膨らませながら製作する
- ・のれんは、クレヨンだけでなく折り紙を使い表現する
- ・品物の名前を子ども達全員が一文字ずつ挑戦する。消極的な子には、手本を見せながら、ゆっくりと挑戦し文字に興味をもたせる
- ・おまつり当日は、異年齢児とふれあい優しく接したり品物が少なくなったら補充を自主的に行う
- ・こどもまつりが成功したことに達成感、満足感を味わう
- ・大きな用紙に太い筆で大きく文字を書き看板をつくる



### ■ 実践をもとにした意見交換

コロナ感染予防のため、電話にて意見交換しました。

#### ○ 小学校教員の意見から

- ・遊びの中で楽しく文字に触れ親しめて、とても良いと思います。
- ・初めから小さなマスに書くより大きな用紙に太い筆で、のびのび書くことができ大変良いと思います。
- ・書き順だけは正しく教えてほしいです。

行事の中に子ども達自身が書いた看板や、のれんが掲示され役に立ったことに子ども達も自信を持つことができ満足感を味わうことができました。また今後の行事の時に、またやりたい、書きたいと「次へ」の気持ち、意欲を育てていければと思います。



## 小学生と一緒に花育！ ～初めての寄せ植え体験～ 認定こども園の実践

### 取り組みの概要

児童1～2名に対して幼児1名の3名1チームを基本とし、1チームで2鉢の寄せ植えを実施

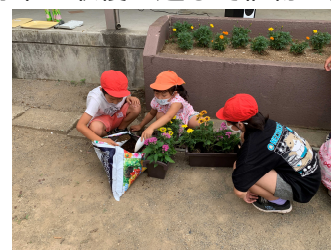
**参加者** 私立こ：30名、小学校：57名

**準備** いばらきの花振興協議会へ花育体験教室参加希望の申請  
撮影禁止となる児童、幼児の確認と共通理解

### ■寄せ植えの実践にあたって

コロナ禍以降、感染拡大を防ぐために直接の交流を制限してきた。感染症の状況を考慮すると小学生と一緒に活動できること自体が貴重な経験であるため、機会を有効に活用できるよう子ども達の気持ちを盛り上げていけるよう声をかけ、花壇の水やりや日々の野菜の収穫を通して植物に関心を高めていけるようにしていった。

普段は関わることの少ない小学生との直接的な交流、共同作業により、【接続期に育ててほしい7つの「子どもの姿」】（茨城県教育委員会）の（4）、（6）【幼児期の終わりまでに育ててほしい姿10項目（46細目）】の23番や29番、37番のような、自然や他者との関わることによって育まれていく学びの入口に繋がっていくことが期待される。



### ■実践をもとにした検討

#### ○こども園保育者の意見から

- ・最初は緊張している様子が見られたが、小学生のリードで徐々に緊張がほぐれ、たくさんの笑顔を見ることができた。保護者からは、帰宅後も嬉しそうに話してくれたとの声があり交流の機会を持ててよかったと思う。寄せ植え後は、今まで水やりをあまりしていなかった園児も積極的に水やりをする姿が見られ、関心の幅が広がったことがうかがえる。

#### ○小学校教員の意見から

- ・とても暑かったが、暖かい雰囲気の中で交流することができた。また、花を植える活動を通して、子ども達の温かい心が引き出されたように感じた。

今回の交流を通し、植物への興味・関心は交流前よりも高まった。また、園内で最高学年である子ども達がお兄さんお姉さんに温かく迎え入れてもらえたことは、園児にとって貴重な経験であり、就学への希望となったのではないかと考えている。

コロナ禍で交流の機会が大幅に制限されていたが、屋外で実施するなど工夫しながらなるべく交流の機会を設けられるようにしていきたい。

## 時間・数字・数 を意識した生活

～認定こども園 はなぶさ の実践～

### 概要

- ・数を意識し数字に興味を持ち始める(大小・多い少ない・数を数える・1～10の順番)

**参加者** 認定こども園 はなぶさ 5歳児 57名

### 準備

- ・ひらがなとすうじのワーク ・時計 ・タイマー など・・・

### 「 数や数字を意識した生活 」

- ・時間を決め時計を見ながら意識して活動する。
- ・おやつを配る際、出席している子の人数分だけお皿を準備する。
- ・数を数えながら和太鼓を叩く。
- ・数字の順番を意識しながら点繋ぎ(線繋ぎ)を行う。
- ・時間を意識して動けるように、長針・短針の指す位置を分かりやすく知らせる。
- ・タイマーを使って活動時間を知らせている。
- ・時の記念日を機に世界で1つだけの時計制作を行ったことで、数字に興味を持ち時間を意識する子が増えた。



出席人数分の皿を並べる



収穫した野菜の数を数える



世界に1つだけの時計



タイマーを使って  
時間を意識する

### ○ 小学校教員の意見から

- ・野菜やアサガオの栽培、生長観察を通して、種やつぼみ、花の数を数える。
- ・おはじきやブロックなど、物を使って数を視覚的に数えていく。
- ・活動時間は、始まりと終わりの時間を時計を使って視覚的に見せている。
- ・タイマーを使って視覚的に確認できるようにする。

### まとめ

就学に向け、数の数え方や時間の知らせ方など、小学校との取り組み方の差があまりなく安心した。今回、幼小連携・接続実践事例を作成することにより、小学校の先生と意見交換をする機会を持つことができとても良かった。今後も小学校での取り組み方を参考にしながら、保育に活かして行きたいと思う。

「段差」のない学びを得るために

～なだらかな学びとともに・・・～

保育園で習得できたものが、小学校での学習にどれだけ反映されているか。

また、就学後スムーズに生活を送るための学びをともに考え、実践していく。

参加者 おおぞら保育園：園児23名（5歳児） 担任保育士：1名

準備 境小学校から頂いたDVD 他

■スタートカリキュラムの実践

★境小学校から頂いたDVD鑑賞会（いちねんせいのいちにち）



1年生はどんなことを  
するのかな…ドキドキ

境小学校1年生の普段の学校生活を拝見。

ひとつひとつに目を輝かせる子ども達でした。

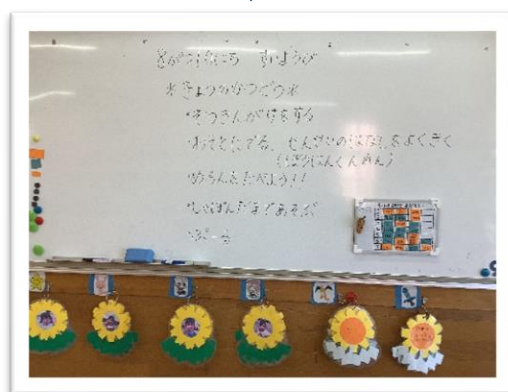
DVD 鑑賞後・・・ ↓ さまざまな活動にチャレンジ！！

★1日の予定を発表！！

子ども達の目安になります。

みんなで共通理解します。

子ども達も真剣



英語の学習にも取

り組んでいます。

疑問点は質問します👉

『みんなの前で発言できることはすごい事』

と子ども達にも伝えていきます。

